

# NISSIN REPORT 2017

会社案内／CSR報告書



# 創業時からの「事業の精神」を原動力に、 さらなる成長と社会貢献に力を尽くします



代表取締役社長  
齋藤 成雄

代表取締役会長  
小畑 英明

当社グループは今年、創立100年、創業107年を迎えました。明治の末、電気の時代の黎明期に京都帝国大学の研究者であった富澤信が、電気計器の国産化を目指し、自らの家宅を売却した資金で日新工業社を立ち上げた時が「創業」。さらなる成長を期して株式会社化し、日新電機株式会社とした時が「創立」です。以来、私たちは、創業時からの「ベンチャー魂」と社名に込めた「日日(ひびに)新(あらたに)」を事業の精神、即ち成長の原動力としながら、日本の近代化と戦後の成長、そして新興国の電力インフラづくりに貢献してきました。

私たちが100年を越えてこうした企業活動を続けることができたのは、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆様からご支援をいただいていたこと、そして革新性を尊び、新しい技術や事業を育てていこうという風土と、幅広い産業の集積を持った京都という地で事業をしてきたことのお陰であると心から感謝しています。

創立100年という節目にあたって、昨年からはステークホルダーの皆様、そして京都や社会に少しでも恩返しをしようといくつかの活動を始めました。一つは、技術系人材の育成を目指して大学院生を対象にした給付型奨学金制度を創設し、毎年20人程度の志ある学生を支援する活動。二つ目は、京都を中心とした歴史的文化的財保護のための寄付活動。三つ目は、京都モデルフォレスト協会の取り組みへの参加などによる環境保全活動です。こうした取り組みを継続的に充実させていくため、今年3月に一般財団法人日新電機グループ社会貢献基金を設立しました。年内には公益財団としての認可を得て、よりしっかりした体制を整えていきたいと考えています。そのうえで、何よりも大切なことは企業としての事業基盤を強化していくことです。企業がさまざまな面でその責任を全うしていくために果たすべき根源的責任がこのことであるからです。

幸いにして私たちの足元では、電力の安定確保、省エネ・省電力、CO<sub>2</sub>削減、モビリティの電氣化など、電気エネルギー界のパラダイムシフトともいべき変化が巻き起こっています。また、半導体やFPD(フラットパネルディスプレイ)における急速な市場の変化と、それに伴った技術革新の波があります。加えて、お客様に納入済みの機器や装置の安定稼働や延命化のための点検・保守・修繕ニーズの増大といった変化があります。

私たちは2011年からの5年間、中長期計画「ビジョン2015」に取り組むことで「電力機器事業」と「ビーム・真空応用事業」の二本の柱に「新エネルギー・環境事業」「ライフサイクルエンジニアリング事業」を加えた四本柱の事業ポートフォリオを構築し、より安定的に成長し利益を上げる体制を作ってきました。これからの5年間は、新中長期計画「VISION2020」に取り組み、足元の変化を新技術、新製品、新ビジネスモデルでチャンスとして捉まえて成長していくために、これまで以上に積極的な研究開発投資、設備投資、教育投資を行い、次の100年に向けた事業の礎を作っていくと考えています。

当社グループは、事業のさらなる成長とそれをベースにした社会貢献に力を尽くし、社会とともに、そしてステークホルダーの皆様とともに成長する企業グループを目指していきます。ステークホルダーの皆様にはこのような日新電機グループへの引き続きのご支援とご鞭撻をお願い申し上げ、NISSIN REPORT 2017発刊にあたってのご挨拶といたします。

2017年6月

代表取締役会長

代表取締役社長

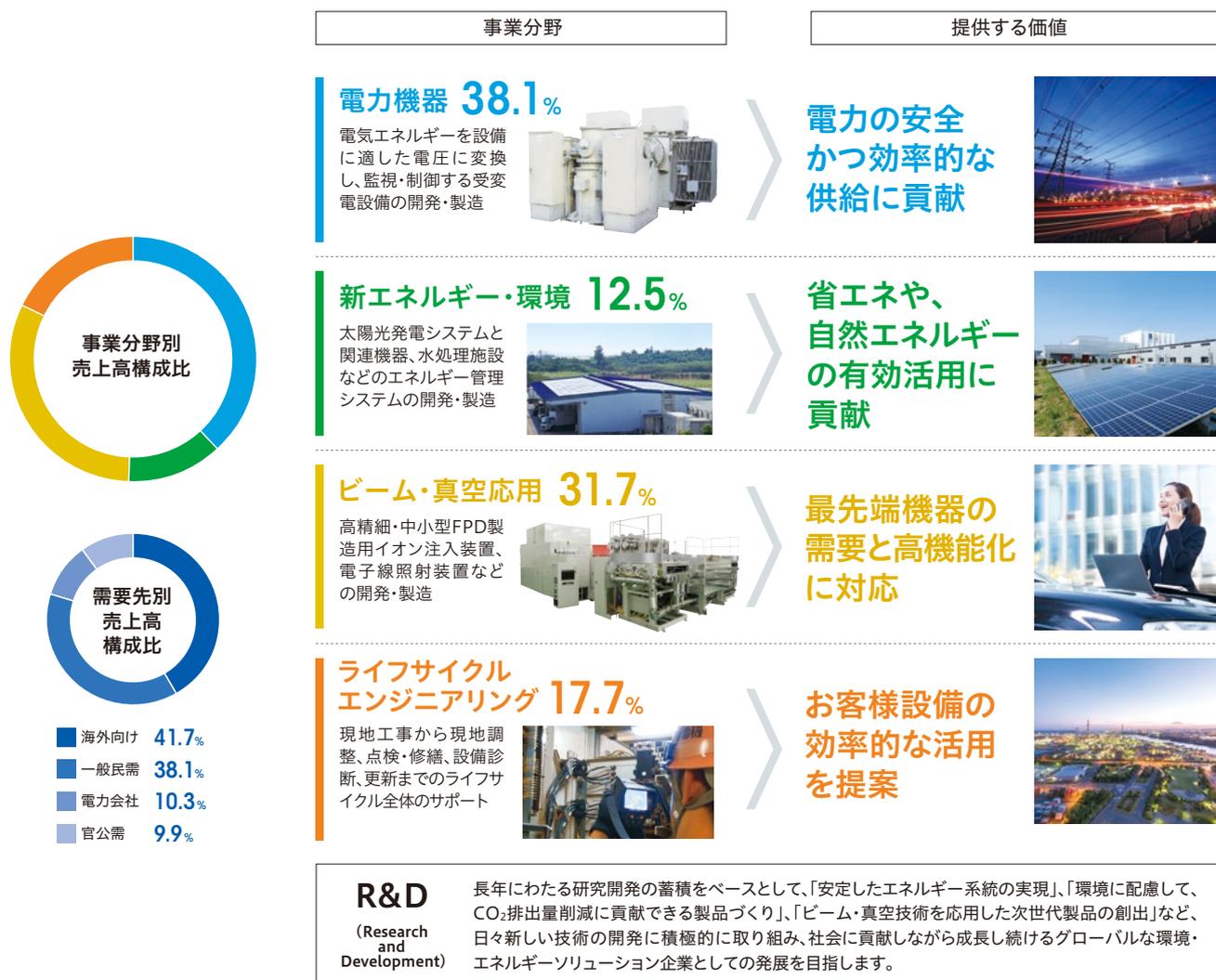
小畑英明 齋藤成雄

## CONTENTS

|                            |    |                         |    |
|----------------------------|----|-------------------------|----|
| トップメッセージ/ CONTENTS         | 1  | 日新電機のCSR                | 21 |
| 会社紹介                       | 3  | 「公明正大・透明性のある企業経営」への取り組み | 25 |
| グループ会社・国内拠点紹介              | 5  | 「お客様からの信頼」のために          | 27 |
| 事業・製品紹介                    | 7  | 「株主からの信頼」のために           | 30 |
| 事業分野別概況                    |    | 「社会からの信頼」のために           | 31 |
| 電力機器                       | 9  | 「パートナーからの信頼」のために        | 33 |
| 新エネルギー・環境                  | 10 | 「社員相互の信頼」のために           | 35 |
| ビーム・真空応用                   | 11 | 「地球環境保全」への取り組み          | 39 |
| ライフサイクルエンジニアリング            | 12 | 社外からの主な表彰・認定            | 43 |
| 特集1: 100年にわたって産業を支えてきた日新電機 | 13 | 社外からの評価/編集方針            | 44 |
| 特集2: 石村亭に見る「誠実・信頼・永いお付き合い」 | 17 |                         |    |

# 電力機器を中心に、社会と産業の基盤を

事業内容 (2017年3月31日時点)



会社概要 (2017年3月31日時点)

**会社名** 日新電機株式会社 Nissin Electric Co., Ltd.  
**創立** 1917年(大正6年)4月11日  
**資本金** 102億5,284万円  
**社員数** 4,852人(連結)  
**建設業許可** 国土交通大臣許可(特-24)第1882号  
**発行済株式総数** 1億783万株  
**株式コード** 6641(東証1部上場)  
**事業内容** 電気機械器具の製造・販売、ならびに付帯工事



# 支える4つの事業を展開しています

## 日新電機グループ 企業理念

創立100年を機に、従来の企業理念を進化させ、次代の成長に向けた原動力とするべく、創業より引き継がれてきた当社グループの遺伝子(DNA)を「事業の精神」として新たに制定しました。そして、下記の通り「企業理念」「行動の原点」「事業の精神」の3つの要素を「グループ企業理念」として再構築しました。

< グループスローガン >

## 人と技術の未来をひらく

### 企業理念

日新電機グループは、社会と産業の基盤を支える企業活動を通じて、環境と調和し活力ある社会の実現に貢献します。

### 行動の原点

#### 「誠実・信頼・永いお付き合い」

日新電機グループは、次の「5つの信頼」の実現を行動の原点とします。  
(お客様からの信頼/株主からの信頼/社会からの信頼/  
パートナーからの信頼/社員相互の信頼)

### 事業の精神

#### 創業以来の『ベンチャー魂』

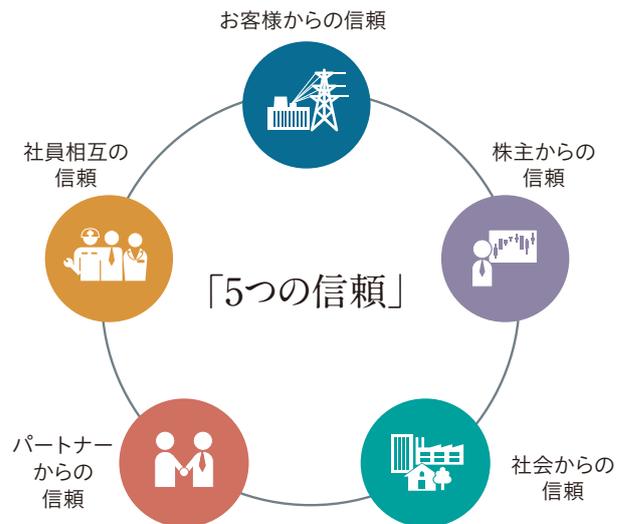
…高い志と常に挑戦し続ける情熱で未来を切りひらく精神

#### 社名に込めた『ひびにあらたに日日新』の精神

…日々新しいことを目指し、努力を怠らない不屈の精神

#### 『そしやくりよく異なった文化や異なった技術への寛容さと咀嚼力』

…異なるものを受け入れ、自らのものにしていく精神



## 中長期計画「VISION2020」

「グローバル・エネルギー・環境・ソリューション」を事業ドメインとして、「4×Global+NEW」の事業ポートフォリオを構築することで、より成長力があり、利益を上げられる企業グループを目指します。













# 新エネルギー・環境

省エネや、自然エネルギーの有効活用に貢献



## 社会的課題

- ✓ 気候変動への対応(地球温暖化)
- ✓ 化石資源の枯渇
- ✓ 原子力発電への不安
- ✓ 自然エネルギーの安定供給・低コスト化

## 日新電機の Solution

- ✓ 電力の省エネ化を推進するSPSS(スマート電力供給システム)
- ✓ 自然エネルギーの安定供給、効率的な供給に資するパワーコンディショナ

## 太陽光発電向け機器の大容量化に積極的に対応

新エネルギーの活用とそれに伴う電力システムの安定化や電力インフラ整備、環境汚染への対応など、地球規模で高まる社会ニーズに応える事業です。新エネルギー分野では、パワーコンディショナやこれを核とした太陽光発電システム、次世代送配電網(スマートグリッド)の構築を支える製品などを提供します。環境分野では、水処理施設の電気設備や監視制御システム、水処理場や工場施設、家庭向けのエネルギー

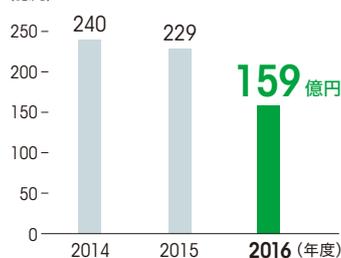
管理システム(EMS)に関わる製品を提供しています。

昨今では、メガソーラー向けに新型のスマートパワコンを投入するなど、大容量化ニーズに積極的に対応しています。また、SPSSとして下水道処理施設向けにアンモニアセンサを使った監視制御システムを、工場向けにエネルギー管理システムを開発、提供を開始しました。

### 売上高構成比



### 売上高推移 (億円)



### 代表的な製品



#### 太陽光発電用パワーコンディショナ

太陽電池にて発電された直流電力を交流電力に変換する装置です。新型のスマートパワコンは収益性向上にお応えするパワコンの進化形です。



#### 蓄電池併設型太陽光発電システム

太陽光発電に蓄電池を併設することで、気象条件による電圧低下などに左右されず、太陽からのエネルギーを有効に活用できるシステムです。



#### 水処理集中監視制御システム

ライフラインである上下水道施設の監視制御を行い、水質の向上、省エネルギー化に貢献、施設の管理・運営を支えるシステムです。



#### HEMS(Home Energy Management System)

タブレット端末を用いて家庭内で使用した電力量の表示や、エアコンなどの電化製品を制御する家庭向けエネルギー管理システムです。

## ビーム・真空応用

最先端機器の需要と高機能化に対応



### 社会的課題

- ✓ 半導体、自動車部品などの需要増への対応
- ✓ 高品質な製品の安定供給
- ✓ 食品・衣料品の安全性強化



### 日新電機の Solution

- ✓ 半導体、FPD製造用イオン注入装置のグローバルな安定供給
- ✓ より高性能な硬質薄膜コーティング装置の開発
- ✓ 電子線照射装置の供給

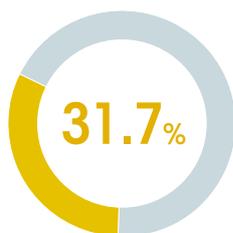
## 蓄積した技術を成長するグローバル市場に供給

長年培ってきた高電圧技術と真空応用技術を、先端分野の製造機器に活用したのがビーム・真空応用事業です。中でも、半導体や高精細・中小型フラットパネルディスプレイ (FPD) 製造用のイオン注入装置、タイヤや電線などの品質を向上させる電子線照射装置、工具や自動車部品の性能を高める薄膜コーティングサービスに注力しており、今後の成長が期待されています。

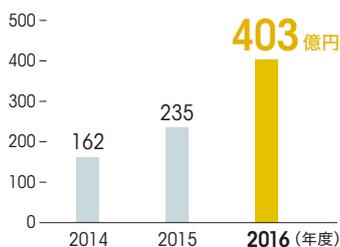
メンテナンス性向上などお客様のご要望に応え、諸機能を

進化させることで、2016年度も FPD 製造用イオン注入装置の市場シェア 100% を堅持しています。電子線照射装置では、自動車関連産業への拡販を進めるとともに、医療・食品に関連する分野などの新たな用途開拓を進めていきます。薄膜コーティング事業では、中国、アセアンなどでコーティング能力を拡充し、増大する現地需要に対応していきます。

### 売上高構成比



### 売上高推移 (億円)



### 代表的な製品



#### FPD製造用イオン注入装置

高精細・中小型 FPD 製造用イオン注入装置は、スマートフォンをはじめとするハイエンドの携帯情報端末などに使用されている高精細ディスプレイを製造するために不可欠な装置です。



#### 電子線照射装置 (EPS)

耐熱被覆電線・熱収縮チューブ・発泡ポリエチレン・自動車用タイヤの製造に使用されている装置です。医療用具の滅菌や環境保全にも利用され、用途は限りなく広がっています。



#### 半導体製造用イオン注入装置

半導体製造用イオン注入装置は、パソコン・モバイル機器などのあらゆるデジタル製品に内蔵されている半導体デバイスの製造に不可欠な装置です。FPD 製造用イオン注入装置と同様の技術を活用しています。



#### 薄膜コーティングサービス

自動車部品や工具・金型などの表面コーティング加工に使用する新型コーティング装置を開発しました。従来装置と比べ短時間・低コストで成膜が可能で、従来比約 2 倍の生産量を実現しました。

# ライフサイクル エンジニアリング

お客様設備の効率的な活用を提案



## 社会的課題

- ✓ 設備の老朽化に伴う更新需要の拡大
- ✓ 電力インフラの安定供給
- ✓ 省エネ・省資源
- ✓ 効率的な設備管理



## 日新電機の Solution

- ✓ 設備診断などによるチェックにより、
  - 故障による事故を未然に防ぐ
  - 設備更新に対応
  - 適切な補修による設備を延命

## 製品のライフサイクル全体をサポート

お客様に納入する当社グループ製品の現地工事から現地調整、点検・修繕、設備診断、更新までのライフサイクル全体にわたってサポートする事業です。

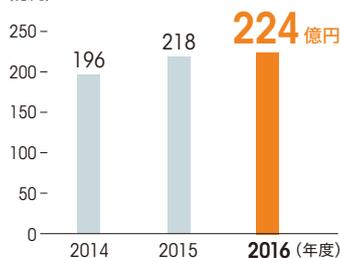
「安全・品質最優先」「お客様からの信頼と安心」「お客様の良き相談(ライフサイクルコンサルタント)」「お客様とともに成長と発展」の基本方針のもと、長年培ってきた経験と卓越した技術力で、お客様に最適なサービスを提供しています。今後、新たなサービスを開発することでライフサイクルエンジニアリング事業を拡大し、さらなるお客様満足度の向上を目指します。



## 売上高構成比



## 売上高推移 (億円)



## 代表的なサービス



### 1. 現地工事

安全と品質を最優先に環境への配慮や各種の規格・基準・法令を遵守して機器の搬入、据付、組立・ケーブル敷設工事を行っています。



### 2. 現地調整

電気設備を安心してお使いいただくために、設備ごとの調整試験やプラント設備なども含めた総合調整試験を実施し、お客様のご要望にお応えできているか確認したうえで引き渡ししています。



### 3. 点検・修繕

定期的な保守点検や有寿命部品の交換、修繕により事故・故障の未然防止を図るとともに設備の延命化を図り、お客様の設備がライフサイクルを全うできるようお手伝いしています。



### 4. 設備診断

長期間稼動した電気設備の劣化状態を把握して、設備システム全体の総合評価を行い、プラント設備との寿命協調を図りながら延命化と更新について提案します。

# 100年 にわたって産業を支えてきた 日新電機

1890年代、京都では日本初の商業用電力発電所や市電が登場し、電気機器メーカーが続出していました。そんな中、1910年に電気計器メーカー「日新工業社」を興した富澤信は、使用電力量を計測する積算電力計の国産化を目指し、1917年に日新電機株式会社を創立。以来、日本の電気産業の発展に貢献してきました。💡 **開発製品**



創業者 富澤 信

## 1910年代

- 1910年
  - 日新工業社として創業 💡 **電気計器**
- 1912年 💡 **配電盤**
- 1917年
  - 日新電機(株)創立 💡 **積算電力計**



創立時の車坂工場

## 1950年代

- 1961年
  - 東京証券取引所へ株式上場
- 1963年
  - 群馬県前橋市に前橋製作所を新設



前橋製作所(現在の写真)

- 💡 **OF式分路リアクトル**
- 💡 **スーパーユニバーサル**

(効率改善用コンデンサに直列リアクトル、開閉器などを組み合わせた装置)

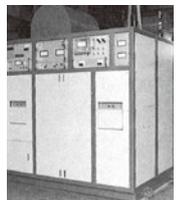
- 1968年
  - 久世工場、九条工場を新設
  - 💡 **ガス絶縁開閉装置(GIS)**
  - 💡 **遠方監視制御装置**

## 1970年代

- 1970年
  - 日新ハイボルテージ(株)を設立し、電子線加速器事業に進出 (2003年(株)NHVコーポレーションに事業を移管)
  - 💡 **超高圧試験所**
- 1978年 💡 **イオン注入装置**
- 1983年 💡 **電子線照射装置(エリアビーム型EPS)**



イオン注入装置1号機



エリアビーム型 EPS

- 1984年
  - ソフトウェアの開発、システム設計などを行う(株)日新システムズを設立
  - 💡 **マルチアーク方式薄膜形成装置**
- 1986年 💡 **瞬時電圧低下対策装置**
- 1987年
  - タイに小形コンデンサ、電機部品などの製造および販売を行う日新電機タイ(株)を設立

## 1930年代

- 1937年
  - 京都市右京区(現在地)に本社工場を建設
- 1945年
  - 住友電気工業(株)よりコンデンサ事業を引き継ぎ、コンデンサ事業に進出
  - 💡 **OF式コンデンサ**
  - 💡 **電力搬送用結合コンデンサ(CC)**
  - 💡 **コンデンサ形計器用変圧器(PD)・・・現在のCVT**

(日新工業社として創業) 1917年 売上高 7千円 (株式会社設立)



1984年 売上高 **607** 億円 (連結決算開始)

- (世の中の動き)
- 1910・京阪電気鉄道 京都～大阪間開通
  - 1911・電気測定法施行
  - 1913・宇治川電気、宇治発電所竣工
  - 1929・世界大恐慌
  - 1945・戦後、電力需要の急伸
  - 1955・高度経済成長の始まり
    - 日本のモータリゼーションの到来
  - 1964・東京オリンピック開催

- 1973・オイルショック
- 1974・サンシャイン計画
- 1987・首都圏大停電

**社名の由来** 「日新」—— 日々独創的な技術を生み出し、人と技術の未来をひらくことを志して

殷王朝(紀元前17~11世紀)の創始者であり、名高い聖天子であった湯王は、毎朝使う洗面器に「苟に日に新にせば、日に日に新に。又日に新なり」と刻み、自らを戒めました。これは、一日自分を新しくすることに努力した後は、次の一日一日も新たに、さらに毎日新たにしていこう——つまり、「少しでも新しくしようとする努力を、途切れなく続けなくてはいけない」という意味が込められています。当社はこの精神に則って日々独創的な技術を生み出し、人と技術の未来をひらくことを志し、「日新」と名づけられました。



湯王の盤の推定復元品

## 1990年代

### 1991年

- 台湾にガスコンデンサおよびガス絶縁開閉装置の製造および販売を行う日亜電機股份有限公司を設立

### 1995年

- 中国最初の合併会社、無錫日新電機有限公司を設立しコンデンサ形計器用変圧器の製造・販売を開始

### 1998年

- イオン注入装置(EXCEED2000A)



EXCEED2000A

### 1999年

- 半導体およびFPD製造用イオン注入装置の製造、据付工事、調整などを行う日新イオン機器(株)を設立

### 2001年

- 中国に電力用コンデンサの製造および販売を行う日新電機(無錫)電力電容器有限公司(現・日新電機(無錫)有限公司)、ガス絶縁開閉装置の製造および販売を行う北京北開日新電機高圧開閉設備有限公司(現・北京宏達日新電機有限公司)を設立
- 水素フリーDLCコーティング

### 2002年

- 中国にガス絶縁開閉装置用の計器用変圧器などの製造および販売を行う日新(無錫)機電有限公司を設立

### 2003年

- 66/77kV 超縮小形ガス絶縁開閉装置(XAE7)

### 2005年

- 薄膜コーティングサービスを行う日本アイ・ティ・エフ(株)を連結子会社化
- 滋賀県に日新イオン機器(株)滋賀事業所・プラズマ技術開発センター新設
- ベトナムに産業用部品の製造・加工の請負などを行う子会社として日新電機ベトナム(有)を設立
- FPD製造用イオン注入装置

### 2007年

- 住友電気工業(株)の連結子会社となる

### 2008年

- 太陽光発電用パワーコンディショナ(SOLARPAC)

## 2010年代

### 2010年

- 米国に半導体製造装置の据付工事、調整、改造および保守・点検を行うNissin Ion Equipment USA, Inc.を設立

### 2011年

- 中国に半導体製造装置の製造・販売などを行う日新意旺高科技(揚州)有限公司を設立
- 中国に電子線照射装置の製造、販売などを行う日新馳威輻照技術(上海)有限公司を設立

### 2013年

- SPSS(スマート電力供給システム)

### 2015年

- 障がい者雇用促進のため、日新ハートフルフレンド(株)を設立(2016年3月に特列子会社認定)



100周年記念碑

### 2017年

- 社会貢献活動を行う(一財)日新電機グループ社会貢献基金を設立
- 創立100周年

2016年  
売上高  
1,269億円  
(過去最高)

中期経営計画「VISION2020」

# VISION 2020

グローバル・エネルギー・環境・ソリューション企業  
4×Global+NEW

1990

- 1990・バブル崩壊
- 1995・阪神・淡路大震災
- 1998・長野オリンピック開催

2000

- 2000・重電不況、業界再編
- 2005・京都議定書発効
- 2008・リーマンショック

2010

- 2011・東日本大震災  
・タイ洪水
- 2012・固定価格買取制度開始

1992年  
売上高  
1,093億円

2008年  
売上高  
1,096億円

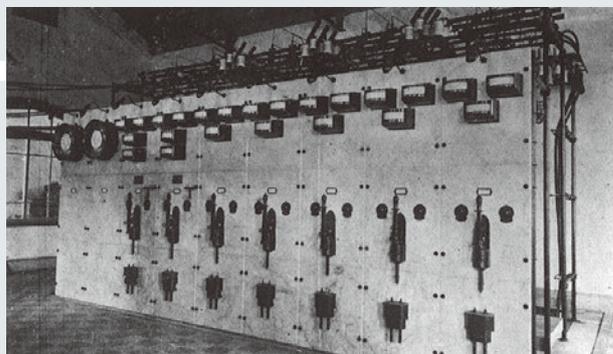
💡 配電盤の開発・販売

電力黎明期への貢献

1912-

配電盤の製造は、創業(1910年)間もない1912年から開始。創業時の当社の発展を主力製品として支えるとともに、電力黎明期の社会の発展にも貢献しました。

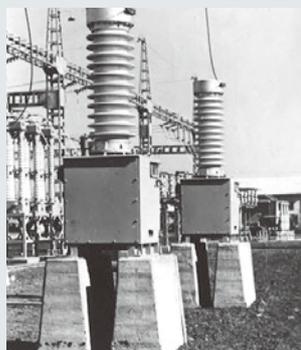
1917年4月に日新電機(株)設立後、特別高圧用の製造を新たに開始、現在の受変電システム事業の礎となりました。



河原町変電所配電盤



OF式コンデンサ



コンデンサ形計器用変圧器(PD)

💡 コンデンサ・変成器

戦後復興を支える

1945-

コンデンサ事業は、1945年12月に住友電線製造所(現:住友電気工業(株))からの事業移管により開始。当社の電力用コンデンサが戦後復興の電力供給を支えました。

また、1950年にはコンデンサ技術を応用したコンデンサ型計器用変圧器(CVT)を開発、現在の変成器事業の形を成す碍子型の油絶縁計器用変成器につながっています。

パートナーとの関係づくり

1951年に「協同組合日新電機協力会」が発足、1964年に事業協同組合として認可され、会員企業数は現在では30社に上ります。半世紀以上の間、互いに協力しあい、技術力の向上はもちろん、次世代経営者の育成にも積極的に取り組んできました。



💡 ガス絶縁開閉装置(GIS)

高度経済成長期の電力需要増に応える

1968-

ガス絶縁開閉装置(GIS)の開発を1968年に着手。翌年には順次電力会社へ納品し、高度経済成長期後期の急激な電力需要増に対応しました。

この技術により、業界トップクラスと評価される遮断器事業の礎を築きました。



三相一体形GIS



## 電子線照射装置、イオン注入装置

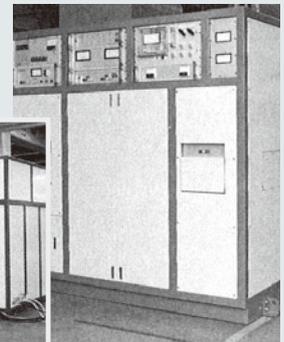
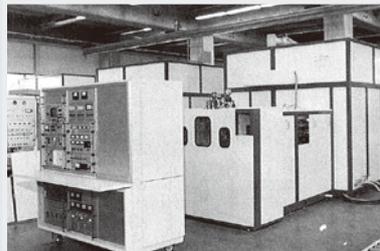
### 技術力を活かし、新規事業に参入

電子線加速器を核とするビーム・真空応用事業分野で、1970年代に新たな市場に参入。自動車向けタイヤなど工業用への用途増大に合わせて、電子線照射装置の大電流装置を開発しました。

さらに当時、成長著しい半導体製造に不可欠なイオン注入装置事業にも参入し、純国産では初となる中電流イオン注入装置を開発しました。

# 1970-

イオン注入装置1号機



エアビーム型EPS

### 海外展開の強化

1980年代後半から海外進出を開始、1987年の日新電機タイ(株)設立を皮切りに、翌年にはアメリカに日新電機米国(株)を設立。1991年には中国、台湾に拠点を設立し、海外展開を強化しました。



## 受変電設備の小形化

### バブル崩壊後の重電不況と民需への対応

バブル崩壊後の重電不況を乗り切るため、電力向けから民需向けに競争市場をシフト。2003年には受変電システムの中核機器であるGISの超縮小形モデル「XAE7」を開発し受変電設備の小形化を図りました。

さらに監視制御事業では水処理向け監視制御システムの開発納入を進めました。

# 1990-



超縮小形ガス絶縁開閉装置

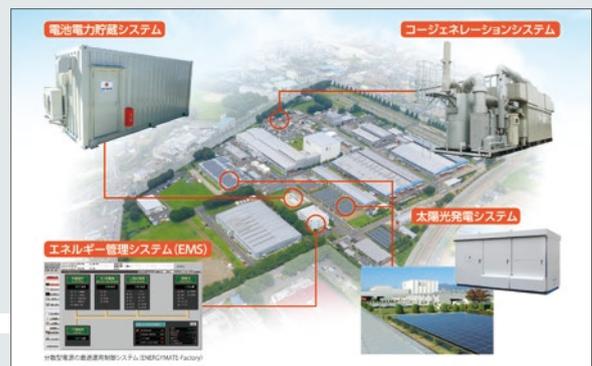


## 太陽光発電用パワーコンディショナ、SPSS®

### 地球環境に配慮した社会への貢献

2011年の東日本大震災を機に急激に拡大した太陽光発電市場へ、太陽光発電用パワーコンディショナ(SOLARPACK)の新製品を次々に投入していきました。

さらに、これまで培ってきた受変電システム技術・電力系統技術をベースとする次世代の受変電システム「スマート電力供給システム(SPSS)」を2013年に開発、2014年から提供を開始しました。



SPSS(スマート電力供給システム)

### 女性活躍推進への取り組み

2004年、意欲のある女性がさらに活躍できる職場づくりを目的に、女性の自主的活動としてプロジェクトチーム「女性活躍推進チーム」を発足しました。



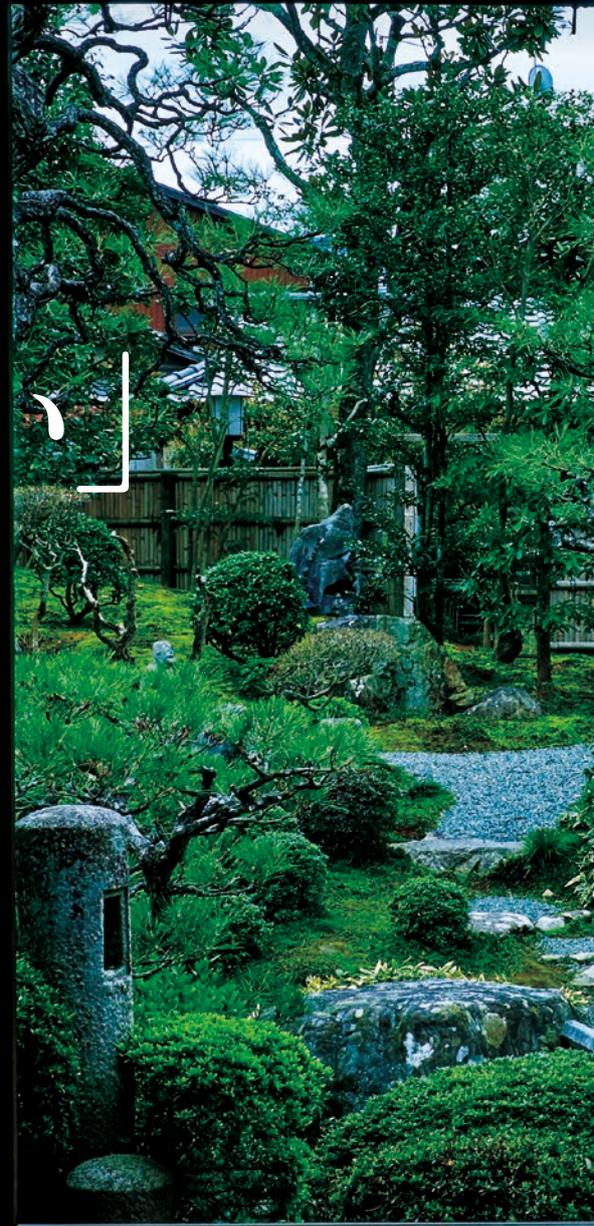
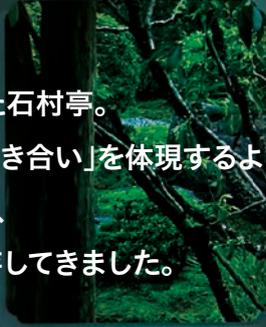
### 地域行事への参加

本社、各支社、支店で近隣地域の清掃活動に参加し、地域の環境保全に協力しています。



# 石村亭に見る 「誠実・信頼・ 永いお付き合い」

文豪・谷崎潤一郎が暮らし、  
名作「夢の浮橋」の舞台にもなった石村亭。  
行動の原点「誠実・信頼・永いお付き合い」を体現するように、  
1956年に譲り受けてから60年間、  
当時の趣や佇まいを変えずに保存してきました。





## 「この佇まいを維持してほしい」——文豪の愛した邸

下鴨は糺の森に面した邸宅「石村亭(せきそんてい)」。明治末期から昭和初期にかけて流行した近代数奇屋建築の母屋と美しい日本庭園が特徴で、築100年を越えます。生涯40回以上転居したことで有名な文豪・谷崎潤一郎は、この邸を「潺湲亭(せんかんてい)」と名付けてこよなく愛しました。そして、1949年から7年もの歳月をここで過ごし、「潤一郎新訳源氏物語」「少将滋幹の母」「鍵」などの作品を生み出しました。

谷崎婦人と縁のあった当社は、谷崎が1956年に熱海へ移り住む時、「京都を訪れた際には見に行きたいので、現状のまま使ってほしい」との条件付きで、この邸を接待寮として譲り受けました。そして今日に至るまで、譲渡時に谷崎自らが名付け直した「石村亭」を、その約束通り大切に守り続けてきました。

2016年7月に日本文化研究の第一人者であり谷崎の友人でもあるドナルド・キーン氏が訪れた際にも、その文化的価値を守り抜く姿勢を高く評価されました。



潺湲亭(現:石村亭)で過ごす当時の谷崎(撮影/増田実)

## 石村亭に見る「誠実・信頼・永いお付き合い」

### 文化的資産の保存と活用

60年前の趣を維持しながら、かつての文豪の姿を社会に伝えています。

谷崎が長らく住まい、執筆活動をしてきた文化的資産として、趣や佇まいを変えないよう、維持保存活動に努めています。近年では、当時の様子や庭の調査を行い、築100年となる母屋の修理や、庭の修繕を行いました。平安朝好みの谷崎が気に入っていた御殿風の母屋は瓦を葺き替えてその優雅な佇まいを維持し、庭は変化に富んだ多くの庭石を楽しめる、石村亭の名にふさわしい姿を残しています。

通常は非公開ですが、日本文学や建物・庭に関する研究を行う団体の見学のほか、新聞・雑誌・テレビなどの取材を受け入れることで、かつての文豪の姿を社会に伝えることに貢献しています。

谷崎との約束を「誠実」に守り、保存と活用を通じて、社会から「信頼」される企業として、当社の誇りである石村亭をこれからも守り続けます。



『和楽』2016年10／11月号P／148（小学館）  
（撮影／伊藤信）

「石村亭は、かつて私が谷崎先生を訪ねたときと変わらない姿で私を迎えてくれました。それは日新電機さんが大変大切に管理保存してくださっているからです。会社の経営が困難になったときも、会社の誇りとして手放さなかつたとお聞きして感心しました。古きよき文化、そして大作家・谷崎潤一郎の京都の住居として維持されていくことは非常に重要なことです。」

#### ドナルド・キーン氏

1922年、ニューヨーク生まれ。コロンビア大学名誉教授。日本文学と日本文化研究の第一人者。1953年から2年間、京都大学大学院への留学中に、瀧湊亭（現：石村亭）に住む谷崎夫妻と交流を持った。欧米に日本文化を数多く紹介した業績は高く評価され、2002年には文化功労者に選ばれ、2008年に文化勲章を受章。2012年に日本国籍を取得。



母屋玄関



初版本のコレクション



書斎の東側の応接間。当時のテーブルと椅子



母屋と中庭

## Column 小説「夢の浮橋」で描かれる石村亭

「夢の浮橋」は右手が不自由になった谷崎が初めて口述筆記で著した小説であり、谷崎文学における母恋物語の代表作。

主人公・紘(ただす)の住居「五位庵」として石村亭が登場しており、庭や部屋の竹まいが生き生きと表現されている。4枚の挿絵に描かれた当時の石村亭の風景は、今も変わらず目にすることができる。

——— 庵は太い二本の杉丸太の正門はいを這入ると、石甃いしだまの路次の奥にもう一つ中門があった。路次の両側にはさ、やかな竹が植わって、朝鮮から運んで来たらしい李朝の官人の石像が二つ相對していた。中門は杉皮のわたぶきを檜肌葺のように葺いた屋根があって、この門は常にとざされていた。  
(小説「夢の浮橋」(中公文庫)より)



(表紙板画  
棟方志功)



(挿絵/田村孝之介)



挿絵に描かれた主室の縁側



挿絵に描かれた中門



(挿絵/田村孝之介)



路次の「李朝の官人の石像」

# CSR推進基本方針をもとに、ステークホルダーへの

## CSR推進基本方針 (2017年4月改定)

- 1) 事業の精神を継承し、環境と調和し活力のある社会の実現に貢献する企業グループとして持続的に成長します。
- 2) 行動の原点「誠実・信頼・永いお付き合い」に示されるステークホルダーからの「5つの信頼」をより強固なものにしていきます。
- 3) 「地球環境との共存」を重視し、環境負荷を低減する製品・サービスの普及に努めるとともに、自らの事業活動における環境負荷も低減します。
- 4) 法令や社会規範を遵守し、公明正大で、透明性のある企業経営を行います。

### CSR重点分野

- 1) 「5つの信頼」の強化
- 2) 地球環境保全への取り組み
- 3) 公明正大・透明性のある企業経営

社会と産業の基盤を支える企業活動を通じて  
環境と調和し活力ある社会の実現に貢献する

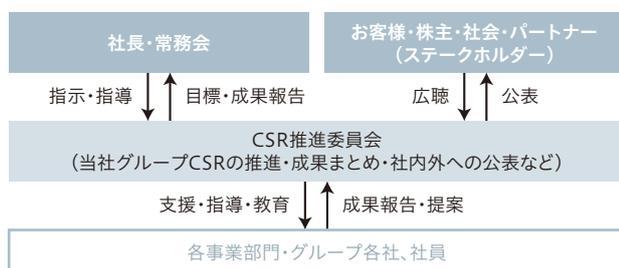


## CSR推進委員会で活動を推進

代表取締役社長を委員長として、全社横断組織「CSR推進委員会」を中心に活動を展開しています。海外グループ会社とも情報交換を行い、各国の事情に合わせて各々の課題に取り組んでいます。

これらの成果は常務会などで経営トップに報告し、適宜指示・指導を受けながら活動を継続しています。

### CSR推進体制図



### CSR推進委員会の構成 (2017年4月)

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 委員長         | 代表取締役社長              |
| 副委員長        | 総務担当部門所管役員           |
| 幹事          | 総務担当部門長              |
| 委員<br>(27人) | 経営企画担当部門長            |
|             | 法務担当部門長              |
|             | 人事・安全担当部門長           |
|             | 人材開発担当部門長            |
|             | 経理担当部門長              |
|             | 情報システム担当部門長          |
|             | 調達担当部門長              |
|             | 環境担当部門長              |
|             | 品質担当部門長              |
|             | 技術開発担当部門長            |
|             | 事業担当部門長(2人)          |
|             | 営業担当部門長(2人)          |
|             | 前橋製作所長               |
|             | 国内グループ会社社長または部門長(8人) |
|             | 海外グループ会社所管部門長(3人)    |
|             | CSR担当主幹              |
| 事務局長        | CSR担当主査              |

# 責任を果たします

## ステークホルダーへの責任と対話の機会

| ステークホルダーの概要  | 主な責任   | 主な対話の方法・機会   |
|--|--|--|
|  <b>お客様</b><br>「電力機器」「新エネルギー・環境」「ビーム・真空応用」「ライフサイクルエンジニアリング」の4つの分野でさまざまな製品・サービスを国内外のお客様に提供しています。                         | 社会に有用で安全・高品質な製品・サービスの提供                              | 日々の営業活動を通じての対話   |
|  | 永いお付き合いをしていただける誠実な対応                                 | 問い合わせ・不具合連絡の24時間受け付けと迅速対応<br>設備管理者様向け情報発信<br>製品の取り扱いに関するお客様向け研修                          |
|  | 製品に関する正確・適切な情報提供                                     | 設備診断・点検時の対話<br>製品の環境への影響に関する対話<br>展示会での情報交換<br>製品カタログ・ウェブサイトなどでの情報提供                     |
|  <b>株主</b><br>当社の株主総数は9,474人。発行済株式総数は約1億株で、所有者別の比率は金融機関16%、その他の国内法人58%、外国法人12%、個人11%、その他3%です。(2017年3月末時点)               | 持続的な株主価値向上<br>適切な水準の配当<br>企業情報の適時・適切な開示              | 株主総会、決算発表<br>冊子「株主のみなさまへ」<br>ウェブサイトなどでの情報提供<br>株主様からの問い合わせ対応<br>投資家様向け説明会および個別取材対応       |
|  | 法律など社会的規範の遵守   | 各種法規制への対応  |
|  <b>社会</b><br>当社グループは国内外に約40の拠点を置いています。(2017年3月末時点)   | 自然環境との調和   | 製品の環境への影響に関する対話<br>マスコミ、行政などの調査への対応<br>ウェブサイトなどでの情報提供                                    |
|  | 社会の一員としての行動  | 技術系人材の育成への協力<br>社外の各種団体との協働による社会貢献活動   |
|  | 地域の文化や習慣の尊重<br>地域社会との協調                              | 京都を中心とした歴史的文化的財の保護への協力<br>地域の環境保全活動への協力<br>地域行事への参加・協力                                   |
|  <b>パートナー</b><br>サプライヤーを対象とした取引先懇談会に参加した取引先様は72社です。(2016年度下期実績、日新電機単体)<br>また、全国販売店会議に参加した販売店様は20社です。(2016年度実績、日新電機単体) | 誠実かつフェアな対応<br>取引先様との共存共栄に向けての協同<br>販売店様との共存共栄に向けての協同 | 日々の調達活動による対話<br>取引先懇談会<br>取引先調査などを通じての対話<br>ウェブサイトなどでの情報提供<br>全国販売店会議、営業技術セミナー<br>受注目標統合 |
|  <b>社員</b><br>当社グループの社員は4,852人です。うち、国内は54%、海外は46%です。(2017年3月末時点)  | 人権、人格、個性、多様性の尊重                                      | 企業内人権啓発推進委員会<br>ヘルプラインデスクの運営   |
|  | 人材育成   | 教育・研修<br>人事評価・面談   |
|  | 安全で働きやすい職場づくり  | 安全衛生委員会、労使懇談会<br>社員意識アンケート調査、社長と社員の意見交換会<br>イントラネットでの社長メッセージ発信・社内報の発行                    |

# 社員一人ひとりの自主性を大切にして、計画的に

## CSR活動の2016年度の計画・実績および2017年度の方針

| 活動領域  |                           | PLAN 計画                             | DO 2016年度取り組み実績  |   |
|-------|---------------------------|-------------------------------------|--|---|
| 企業経営  | 公明正大・透明性のある企業経営<br>P25-26 | コンプライアンスの徹底                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>●コンプライアンス体制の整備の継続</li> <li>●「贈賄防止規程」の制定に向けた活動</li> <li>●海外グループ会社のコンプライアンス指導</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●当社の規制と国内外グループの基本方針を定めた「贈賄防止規程」を制定・施行</li> </ul>   |
|       |                           | リスク管理の徹底                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>●リスクの現状把握、管理方針と対策の決定</li> <li>●グループ全体を俯瞰したリスクの整理と対応策決定</li> <li>●大規模災害発生時における諸対策の展開</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>●リスク管理委員会、リスク管理実務委員会を実施</li> <li>●安否訓練、防災訓練を実施</li> </ul>  |
|       |                           | ICT活用と情報セキュリティの徹底                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●企業機密情報の管理強化</li> <li>●当社と国内グループ会社の諸施策の実施</li> <li>●海外グループ会社向け諸対策</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●トップレベルの技術ノウハウ選定のためヒアリングを実施</li> <li>●感染予防の施策強化(接続デバイス制御、実行型添付ファイル除去、出口監視、啓蒙ポスター掲示、メール訓練など)</li> </ul>                                       |
| お客様   | お客様<br>P27-29             | 品質向上活動                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>●再発防止対策、未然防止対策や変化点管理などの共有化による日新電機グループ一丸となつての品質向上対策の展開</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●3H(はじめて、変更、久しぶり)活動を中国5社へ展開</li> <li>●日新電機グループQA会議の月次開催</li> <li>●IT活用によるデザインレビューの仕組み構築と試行開始</li> </ul>                                      |
|       |                           | お客様の声を改善へつなげる                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●お客様の声の収集と分析による改善の実施</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●営業、営業技術への聞き込みとアンケートにより、お客様の声を収集し、優先順位をつけて改善実施</li> </ul>  |
|       |                           | ライフサイクルエンジニアリングの推進                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●経年劣化などによる製品事故防止のための点検や診断の実施</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●技術員の顧客訪問による点検・修繕提案</li> <li>●設備の良否判定実施</li> <li>●設備診断による保全・更新計画の提案</li> </ul>   |
|       |                           | お客様の課題を解決する製品・サービスの提供               | <ul style="list-style-type: none"> <li>●SPSS(スマート電力供給システム)に関するお客様ニーズの分析とソリューション提案の具体化</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●営業ツールを作成し、お客様のエネルギー運用の困りごと解決に向けた提案活動を実施</li> <li>●「ENERGYMATE®-Factory」発売開始</li> </ul>  |
| 株主    | 株主<br>P25,30              | コーポレートガバナンス・コードに基づいたガバナンス体制と情報開示の充実 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●コーポレートガバナンス・コードへの対応</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●開示義務のある全17事項につきコンプライ(実施済み)</li> </ul>   |
|       |                           | IR活動の充実                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>●対面によるIR活動</li> <li>●出版物などによるIR活動</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●投資家様向け会社説明会1回、個人投資家様向け会社説明会2回実施、IR取材159件に対応</li> <li>●決算短信、アニュアルレポート、ファクトブックなどを出版</li> </ul>  |
| 社会    | 社会<br>P31-32              | 技術系人材の育成                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>●技術系人材の裾野拡大に向けた取り組みと国内外での就学支援</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●大学院生向け給付型奨学金制度を開始</li> <li>●小学生理科教室を京都・前橋・千葉で展開</li> <li>●海外の学生への奨学金給付を実施</li> </ul>  |
|       |                           | 京都を中心とした歴史的文化的財の保護                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●社会貢献活動方針に基づき、主旨に賛同できる事業・団体への寄付拡大</li> <li>●庭の修繕など石村亭の活用拡大に向けた準備</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●京都府、京都市の取り組みなどに協力し、継続1件、新規4件の寄付を実施</li> <li>●石村亭の建物・庭の修繕、展示品の修繕・充実</li> </ul>   |
|       |                           | 地域の環境保全活動への協力                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域清掃活動への参加</li> <li>●森林保全への協力</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域清掃活動(京都府、名古屋市、福岡市など)への参加</li> <li>●(公社)京都モデルフォレスト協会への協力</li> </ul>  |
| パートナー | パートナー<br>P33-34           | CSR調達の推進                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>●CSR調達アンケートの対象先を拡大</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●前橋地区の主要取引先30社に対して新たにCSR調達アンケートを実施し、結果をフィードバック</li> </ul>  |
|       |                           | 取引先とのパートナーシップ                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●取引先様との各種懇談会の企画・運営</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●取引先懇談会を年2回実施</li> <li>●事業部単位での懇談会を2部門で実施</li> <li>●輸送関連取引先様との定例会を年5回実施</li> </ul>   |
| 社員    | 社員<br>P35-38              | 成長を支援する教育・研修の推進                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●人材育成機会の増大(年間受講者数目標:のべ4,700人以上)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●必要な時期に対象者へ教育・研修を計画的に実施(研修カリキュラムの増加、CSカレッジ(お客様サービス専門コース)の新規開催、グローバル教育コースの新規開催)</li> </ul>  |
|       |                           | 多様な人材の活用                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>●グループでの障がい者法定雇用率達成</li> <li>●女性活躍推進法における行動計画の目標達成(女性比率15%、女性管理職比率1.8%)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●日新ハートフルフレンド(株)の4人新規採用</li> <li>●国内グループ3社の関係会社特例認定取得</li> <li>●新卒採用において女性採用計画数達成</li> <li>●女性管理職計画を上回る登用実施</li> </ul>                        |
|       |                           | 多様な働き方とワークライフバランスの推進                | <ul style="list-style-type: none"> <li>●メモリアル休暇および計画休暇制度の利用促進</li> <li>●介護セミナー開催と相談窓口の設置</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●2016年度より申請受付開始、申請低調なため下期初めに再通知</li> <li>●介護セミナー全拠点で開催および相談窓口開設</li> </ul>   |
|       |                           | 安全・健康の増進                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>●三悪災害(感電・転落・運搬)ゼロに向けた取り組み</li> <li>●安全実感研修の対象者全員受講</li> <li>●ストレスチェック実施</li> <li>●受動喫煙防止対策実施</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●外注先含む全電取扱い業務従事者への理解度テスト実施</li> <li>●安全実感研修の対象者全員受講完了(2012年からの5年間で1,100人受講)</li> <li>●グループ会社含めストレスチェック実施</li> <li>●喫煙場所の整理と分煙化の徹底</li> </ul> |
|       |                           | コミュニケーションの強化                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●社長と社員(管理社員・主任)の意見交換会継続</li> <li>●3会合同かきり長会による横のつながり強化</li> <li>●製造部門の若手交流会(本社・前橋製作所間)</li> <li>●社員意識アンケート調査の実施と分析</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●のべ7回実施、計80人が参加</li> <li>●2年目の開催となり参加者も100人に増加</li> <li>●本社・前橋にて開催、約40人が参加</li> <li>●部門長へ分析結果をフィードバック</li> </ul>                             |
|       |                           | 地球環境保全                              | 地球環境保全<br>P39-42   | P41~P42をご覧ください。   |

# CSR活動に取り組んでいます

○:実績、※:課題

|  | CHECK 評価コメント   | ACTION 2017年度の方針   |
|--|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○計画通り実施</li> <li>※国内外グループへの一層の展開</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国内外グループ会社で、各国の贈収賄規制の法令や実状を踏まえた社内規程を策定</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○委員会を計画通り実施し、リスクの把握および対策を決定</li> <li>○12事業所における防災訓練を実施</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●事業リスク管理強化に向けた管理方針検討と対策実施</li> <li>●2016年度実施項目の継続と拡大</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○トップレベルの技術ノウハウを選定</li> <li>※「機密情報管理規程」の制定</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●施策の進め方を再検討</li> <li>●「機密情報管理規程」の改定に注力</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○当社と国内グループに対する施策は一定の効果あり</li> <li>※海外グループの国内レベルまでの引き上げが必要</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国内は現状施策の継続および拡充</li> <li>●海外は管理レベルの引き上げ</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○3H活動を中国5社への展開実施</li> <li>○日新電機グループQA会議の定着</li> <li>○IT活用によるデザインレビューの試行実施</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●3H活動のベトナムへの展開</li> <li>●日新電機グループQA会議の有効性向上</li> <li>●IT活用によるデザインレビューの適用拡大</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○システム製品での立ち会い窓口の一本化</li> <li>○安全に関わるご指摘への改善を実施</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●お客様からのご意見から、より多くの満足感をお客様に提供</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>※目標件数未達成のため、活動の拡大が必要</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●技術者訪問、診断活動の継続と拡大</li> </ul>  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○当社の活動に対するお客様の認知拡大</li> <li>○「ENERGYMATE®-Factory」で第66回電機工業技術功績者表彰を受賞</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●エネルギー運用の困りごと解決のビジネスを継続拡大し、お客様とWIN-WINの関係を拡大</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○計画通り実施</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●取締役会の分析・評価に基づく改善の継続</li> <li>●コーポレートガバナンス体制の一層の充実に向けた施策実施</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○計画通り実施</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●投資家様とのコミュニケーションの拡充</li> </ul>  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>※大学院生への奨学金制度給付の人数増加</li> <li>○小学生理科教室は前年比3校増の23校で実施</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●奨学金制度の対象範囲の拡大</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○寄付を5件に拡大、京都を中心とした文化財の修理の一助とした</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●行政との連携による寄付の継続、拡大</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○石村亭の文化的価値が向上、当社グループの姿勢を一層体現するものとなった</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●社員向けの石村亭の価値と当社の姿勢を伝える活動の推進</li> </ul>  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域清掃活動への参加者は増加</li> <li>※京都以外での活動拡大が必要</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●森林保全も含めた社員参加型活動の拡大・推進</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○計画通り実施し、取り組みを深化させた</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●日頃の商談などを通じた啓発活動の推進</li> <li>●CSR調達アンケート対象先をグループ会社に拡大</li> </ul>  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○計画通り実施</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●各種懇談会の継続・拡大によるパートナーシップの強化</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○年間受講者数目標達成:のべ5,072人が受講した</li> <li>○年間カリキュラム数:171講座に増加</li> <li>○一人あたりの受講時間:35時間/人に増加</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●人材育成機会を一層増大するため、若手社員のキャリア開発促進、グローバル教育の拡充</li> </ul>  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○目標達成:グループ雇用率2.14%</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●2018年度雇用率引き上げに対応すべく採用継続と業務拡大</li> </ul>  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○目標達成</li> <li>○新卒採用における女性比率15%および女性管理職比率2.2%達成</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●2018年度新卒採用においても女性比率15%維持努力</li> <li>●女性管理職との意見交換などによる人材育成および女性管理職登用拡大</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>※休暇制度の浸透不足。取得率6割程度を増加必要</li> <li>○介護制度のニーズ把握および相談件数増加中</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●メモリアル休暇および計画休暇申請のフォローによる取得率向上</li> <li>●全社員に両立支援冊子の配布と活用PR</li> </ul>  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>※感電事故ゼロなるも、運搬作業における災害と階段での転落災害の撲滅</li> <li>○研修により経験年数の浅い社員の災害が低減</li> <li>○ストレスチェック実施率95%達成、高ストレス者の面談も実施</li> <li>○屋内喫煙場所撤去と分煙室整備進捗中</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>●三悪災害ゼロに向けた取り組み継続</li> <li>●2巡目となる安全実感研修再構築と継続実施</li> <li>●ストレスチェック2年目実施と改善効果などの検証</li> <li>●受動喫煙防止対策の継続実施</li> </ul>                         |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○活発な議論を通して、会社が目指す目標の共有が進んでいる</li> <li>○安全や改善の取り組みを共有するなど有意義な取り組み</li> <li>○多くの交流の場ができ、横のつながり作りに貢献</li> <li>○階層別のヒアリングも実施し、より具体的な対策につなげやすくなった</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●2017年度新任管理社員および主任に対し意見交換会継続</li> <li>●前橋かかり長会を加えた4会合同かかり長会へ拡大予定</li> <li>●製造部門の若手交流会継続開催</li> <li>●改善効果の検証も含め、2017年度社員意識アンケート調査実施</li> </ul> |



# 「公明正大・透明性のある企業」

各種法令に十分対応し、遵守していくとともに、リスク管理に努め、コーポレートガバナンスの一層の充実に向けて鋭意取り組んでいます。

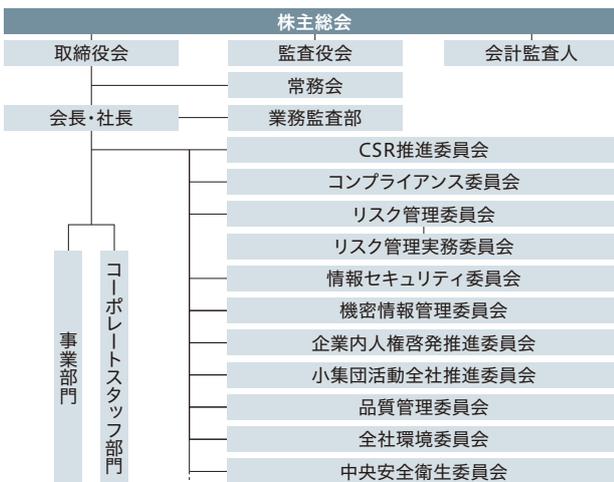
## コーポレートガバナンス

### 監査によるガバナンスの強化

当社は「監査役会設置会社」の体制下で3人の社外監査役を設置しているのに加え、2016年6月には2人目の社外取締役を選任し、社外取締役を2人に増員しました。

取締役会は経営上の最高決定機関として、重要事項の審議・決定を行い、取締役が業務執行状況の監督を行っています。また、監査役や会計監査人と連携しつつ「業務監査部」（社長直轄組織）が、海外を含む当社グループ全体の内部監査を実施しています。今後も引き続き、コーポレートガバナンスの一層の充実に向けて取り組んでいきます。

コーポレートガバナンス体制図



### コーポレートガバナンス・コードへの対応

コーポレートガバナンス・コードの適用が2015年6月から開始されたのを受け、開示・説明が義務付けられている17原則について、11原則を2016年6月に東京証券取引所サイトで改めて開示し、残る6原則を当社ウェブサイトで開催し、17原則すべてを実施済み（コンプライ）としました。

なお、当社のコードへの対応を含めたコーポレートガバナンスに関する基本的な方針や考え方をまとめた「コーポレートガバナンス・ガイドライン」を2016年5月に策定し、併せて開示しています。

## コンプライアンスの徹底

### コンプライアンスの基本方針

当社グループにおいて、コンプライアンス（法令・企業倫理の遵守）は経営の根幹を成すものであり、当社グループが今後存続・発展していくための絶対的な基盤であると考えています。そのため、各種法令に十分対応し遵守していくとともに、日新電機グループの「行動の原点」に基づき、ステークホルダーとの確かな信頼関係の構築に尽力していきます。

また、2016年4月からスタートさせた新たな中長期計画「VISION2020」に基づき、一層のグローバル化に向け、グループの事業活動や役員・社員一人ひとりの行動もさまざまな国の法律や文化・慣習・国際ルールなどにより適合したものにしていきます。

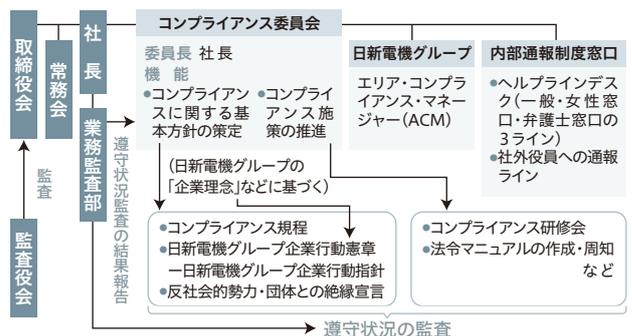
### コンプライアンス体制の整備

日新電機グループの「企業理念」・「行動の原点」・「事業の精神」に基づき「日新電機グループ企業行動憲章」・「日新電機グループ企業行動指針」を定め、当社グループの全役員・社員に周知しています。コンプライアンスの一層の徹底のための施策や教育・啓発活動を「コンプライアンス委員会」が各職場・グループ会社の「エリア・コンプライアンス・マネージャー」\*と連携して推進しています。

また、海外グループ会社では、重要な社内規則のレビュー・整備を進めています。当社グループでは2009年以降現在まで約8年間、法令違反での罰則の適用はありません。

\* エリア・コンプライアンス・マネージャー：各職場でコンプライアンスの徹底に取り組む責任者。部門長やグループ会社社長などが選定される。

コンプライアンス体制図（2017年4月現在）



# 経営」への取り組み

## 内部通報制度の拡充

当社グループとしてセクハラ・パワハラなどを含めたコンプライアンスに関する問題を早期に把握・調査し自主的に是正・解決すべく、2004年に内部通報・相談窓口として「ヘルプラインデスク」を設置しました。以来、女性担当者、社外の弁護士、さらには当社の社外役員が通報・相談を受ける窓口を開設するなど、制度の拡充を図ってきました。

「ヘルプラインデスク」への相談は2014年度12件、2015年度14件、2016年度9件寄せられており、問題が大きくなる前の自主的な是正・解決を図る礎となっています。

## コンプライアンス教育の推進

2016年度は、国内グループ社員を対象にした「全国コンプライアンス研修会」でカルテル禁止の遵守徹底、建設業法の改正ポイント、インサイダー取引規制などをテーマに、「役員・執行役員コンプライアンス研修会」で取締役会での経営判断と株主代表訴訟をテーマに研修を実施しました。

さらに営業社員などを対象とした「コンプライアンス懇談会」ではカルテル禁止の遵守徹底指導のほか、日常の営業活動での法律に関する疑問点や悩みなどについて懇談しました。



前橋製作所でのコンプライアンス研修会

## 人権の尊重

全社横断組織として「企業内人権啓発推進委員会」を設置し、人権問題に対する正しい理解と認識を深めるための啓発や、全社員がお互いの人権を尊重し、いきいきと働くことのできる明るい職場づくりを推進しています。

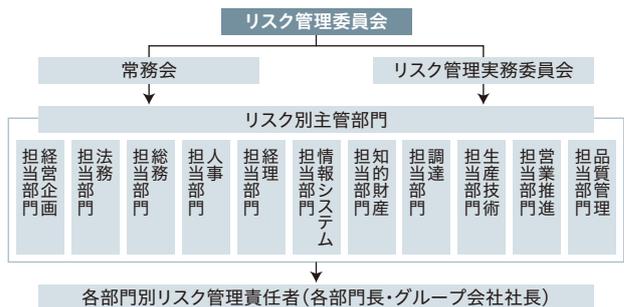
2016年度は、新入社員や新任管理社員向けの階層別教育のほか、全社員を対象に「職場の人権問題」をテーマとした研修を行いました。

## リスクマネジメント

### リスク管理の徹底

ビジネスリスクを含む当社グループ全体のリスク管理・対策を検討する体制として、基本方針などを定める「リスク管理委員会」と、その下部組織として実効性を確保する「リスク管理実務委員会」を設置しています。自然災害や情報セキュリティなど、リスクごとに予測される局面を想定し、緊急事態発生時の対応を主管する部門をリスク別に定め、グループ横断的なリスク管理を行っています。各部門やグループ会社においては、部門長およびグループ会社社長が部門別リスク管理責任者として、部門内のリスク管理を推進しています。

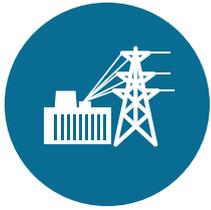
リスク管理体制図



### ICT活用と情報セキュリティの徹底

当社グループでは刻々と変化する情報セキュリティ環境に対応するため、情報システム担当役員を委員長とした「情報セキュリティ委員会」を設置。情報セキュリティに関する規程および要則の適時改定をはじめ、情報漏洩防止などの各種対策の整備、社員へのセキュリティ教育の義務化、さらに2016年度からは取引先様まで対象範囲を拡大し、セキュリティ研修会を開始するなど、情報セキュリティ管理の徹底を図っています。

当社グループはこれからも、ICTの積極活用によるビジネスや経営への貢献を推進すると同時に、情報セキュリティレベルの向上にグループ全体で取り組んでいきます。



# 「お客様からの信頼」のために

お客様のお役に立ち、信頼される会社であり続けられるよう、  
お客様の視点に立った活動を実施しています。



アンモニア態窒素常時監視システムによる運転管理

## Highlight 2016 お客様の課題を解決する製品・サービスの提供

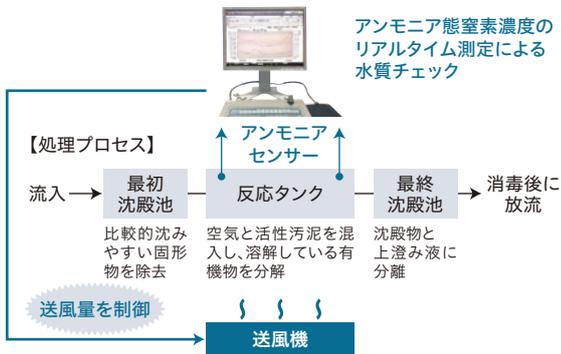
### 下水処理施設で 省エネに貢献

下水処理施設は暮らしを支える重要な社会インフラですが、処理過程で多くの電力を消費することが課題となっています。そこで当社は「新たな水処理制御技術による省エネ」「水処理資源の利活用による創エネ」「電源多様化による被災時のリスク軽減」など、さまざまなエネルギーソリューションを提案し、循環型社会の実現に貢献しています。

その一環として、2016年度には大和市北部浄化センター（神奈川県）にアンモニア態窒素常時監視システムを納入しました。同センターは神奈川県内の他市町村に先駆けての導入となりました。これにより、アンモニアセンサーを用いて下水処理プロセスのアンモニア態窒素濃度をリアルタイムに計測・監視することができ、運転管理が容易になりました。このシステムから得られるデータを用いてこれからも大和市と情報交換を継続し、放流する水質の安定と省エネの双方に貢献します。

当社はこれからも省エネやその他の環境保全ニーズなど、お客様の幅広いご要望に応えるシステム・装置を提案・設計・製作・施工し、信頼いただける企業を目指します。

アンモニア態窒素常時監視システム



### voice 導入前の細やかなシミュレーションを評価いただきました

水質測定・分析データをもとに、お客様と課題を共有し検討を進める中で、アンモニアセンサーによる「水質の見える化」が有効と判断。リアルタイムデータを用いた分析の結果や、シミュレーションにより「下水処理に必要な送風機の電気使用量を削減できる」という省エネ効果を共有できたことで納入に至り、お客様に大変ご満足いただくことができました。

環境事業本部 事業統括室  
環境ソリューション  
事業推進担当  
企画グループ 主査  
竹原 輝巳



## 受変電設備を学ぶ 「お客様向け研修」の実施

2006年に「五感で学ぶ」というコンセプトで開設した技術研修所では、お客様を対象に受変電設備の保守に携わる電気技術者の育成を支援する研修を実施しています。2016年度はのべ5回開催し、計31人に参加いただきました。

研修は、実務経験豊富な当社技術者が講師を務め、日常業務では経験できない実習を中心に行うほか、受講者との交流を重視した内容となっています。



受変電設備の停電、復電操作を実機で学ぶお客様

### 「お客様向け研修」の内容(例)

#### 「受変電設備保守」コース(所要日数:2.5日)

|     |   |
|-----|---|
| 1日目 | 受変電設備の基礎理論(机上研修)  |
| 2日目 | <p>主要機器の構造と取り扱い(机上研修・実習)<br/>安全作業を学ぶ(机上研修・実習)</p> <p>停電、復電操作の基本操作と注意点について、実機を使い、キュービクル式受変電設備に6,600Vを課電した状態で行う実習。</p> <p>電気設備の事故例と適切な保全業務(机上研修・実習)</p> <p>絶縁劣化の兆候のある電力機器を教材にした、劣化診断装置での調査や配線端子の締付不良による過熱異常体験、サーモラベルの変色体験などの実習。</p> |
| 3日目 | <p>製品製造過程見学<br/>電気設備の保守点検の要点(実習)</p> <p>人工的に高圧地絡事故を発生させた上での、継電器の動作、不要動作の体験や、制御電源の地絡点調査方法の実習。</p> <p>電気設備の事故例とトラブル調査方法の解説(机上研修・実習)</p> <p>技術交流会</p>  |

## ライフサイクルエンジニアリングの推進

### センサー技術を活かして 操業を止めずに設備診断

ライフサイクルエンジニアリング事業では、当社グループの製品について、現地据付け調整工事から点検・修繕および設備診断までのライフサイクル全体にわたって、きめ細かいサポートを提供しています。特に近年、製品事故を未然に防ぐための設備診断に関心が高まり、停電状態で実施する従来の方法から、操業を止めずに活線状態でより早く異常兆候を掴む「活線診断」が重要視されています。

こうしたお客様のニーズにお応えするために、当社では最新のセンサー技術や診断装置を用いた設備診断メニューの充実を図っています。活線状態で設備の絶縁劣化による部分放電や接触不良による過熱、劣化の原因となる環境などの微妙な変化を捉え、事故・故障リスクの早期発見・処置につなげています。

今後さらに新たなセンサー類を開発し、ICT・IoT※を活用した高度な状態監視診断で、より一層「お客様の安心と信頼」に貢献していきます。

※ ICT・IoT:「Information Communication Technology」、「Internet of Things」の略。機器同士のネットワークを構築し、随時収集した情報をさまざまな物事に役立てようとする考え方。



部分放電検出装置による活線診断



# 「お客様からの信頼」のために

## 品質向上活動

### 国内外での 品質向上への取り組み

#### 品質方針

法令・規制要求事項および顧客要求事項を満たすことの重要性を理解し、顧客およびそれ以外の密接に関連する利害関係者に信頼される製品・施工・付帯サービスを技術と誠実な対応で提供するとともに、品質マネジメントシステムの継続的改善に努め、効果的に機能させることにより、顧客満足の向上を目指します。

#### 国内

お客様からの不具合連絡やお問い合わせを受け付ける日新電機グループ\*の窓口「CSセンター」や、製品出荷前の立ち会い検査でのアンケートなどを通じて集約したお客様の声を各部門へフィードバックしています。お客様とのコミュニケーションの充実を図り、こうして集約した声をもとに品質向上活動を進めることで、お客様満足度のさらなる向上に取り組んでいます。

\* 日新電機グループ：日新電機(株)各部門、(株)NHVコーポレーション、日新イオン機器(株)、日本アイ・ティ・エフ(株)

#### ■ 全社品質大会

各部門の品質改善の取り組みに学び、品質意識向上と改善に取り組むきっかけとして、全社品質大会を2012年度から日新電機グループで開始しました。年4回開催し、各地点をテレビ会議で結び、経営層を含め毎回200人以上が参加し、取り組みの紹介にとどまらず、活発な質疑応答を行っています。大会後には交流会も開催し、日頃意見を交わすことが少ない他部門との交流機会となっています。

#### ■ 日新電機グループQA会議

過去に発生した不具合の再発防止策と不具合の未然防止策について日新電機グループで議論する場として、2015年度に日新電機グループQA会議を開始し、継続的な品質向上を目指して活動しています。

#### 海外 GLOBAL

中国を拠点とするグループ会社5社は、3H活動\*を推進し、取り組みを共有して互いに学ぶことでさらなる改善につなげることを目的に、品質分科会を行っています。

こうした中国拠点での品質管理支援の経験を活かし、2016年度からは日新電機ベトナム(有)でも品質向上に向けた活動を開始しました。基本的な考え方の理解から、品質改善の継続実施、データの分析・管理方法などを、現地の文化的背景や状況に配慮しながら指導しています。平均年齢が27歳と若く、何事にも真剣に向き合う同社社員とともに、日々品質改善に取り組んでいます。

\* 3H活動：はじめて(Hajimete)、変更(Henkou)、久しぶり(Hisashiburi)の頭文字で、事前にミスの起きやすい3Hの視点で課題に気付き、問題が発生しないよう確認しながら仕事を遂行し、事故や不具合を未然に防止する活動。



日新電機ベトナム(有)での品質管理指導

## VOICE 本社と協働で一歩一歩向上

2005年に設立した日新電機ベトナム(有)は、日新電機グループの中でも若い会社です。板金加工から組立まで一貫生産で対応し、ベトナム国内だけでなく、日本から欧米まで、世界中のお客様に製品をお届けしています。お客様に感動していただけるものづくりを目指して、社員一人ひとりが品質向上意識を持ちながら、活動に取り組んでいます。

日新電機ベトナム(有) 工場長  
クエン・バン・ビエン  
Nguyen Van Bien



WEB  
掲載情報

▶ 品質保証体制 ▶ 品質マネジメントシステム認証取得状況 ▶ 製品安全審査 ▶ メールマガジン紹介 など



# 「株主からの信頼」のために

株主様への情報開示の充実、建設的なコミュニケーション、適正な利益還元に努め、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図ります。



個人投資家様向け会社説明会

Highlight 2016 情報開示の充実

## 適時適切・透明性のある情報開示

コーポレートガバナンス・コードの基本原則である「適切な情報開示と透明性の確保」の規定に則り、適時適切な情報開示を基本に、各種法令・規則で定められる事項に加え、当社への理解醸成に役立つ情報を発信しています。

また、株主様との対話の機会を拡充すべく、2016年度は機関投資家様向け決算説明会のほか、個人投資家様向けの会社説明会を2回開催しました。さらに株主様からのさまざまなお問い合わせにつきましても、IR担当取締役の指揮のもと、経営企画部・経理部・法務部などのIR関連部門が連携しながら迅速かつわかりやすく説明するよう心がけています。

## 株主総会で対話の機会を充実

当社では2016年5月策定のコーポレートガバナンス・ガイドラインに基づき、株主様に株主総会で一層適切に権利を行使いただけるよう、2016年6月の定時株主総会から議決権電子行使プラットフォームの利用を開始しました。また、株主総会招集通知の内容を発送に先立ち当社ウェブサイトで開示し、一部は英訳もしています。さらに、株主様との対話を充実すべく、株主総会終了後に会場で株主様からの質問・意見などをお聞きする場を設けるとともに、希望する株主様を対象に工場見学会を行っています。

2016年6月はコンデンサ工場の素子巻きラインとショールームを見学していただきました。



2016年の株主様工場見学会 (コンデンサ工場)

## 安定配当を基本に適正に利益を還元

安定した配当の維持と適正な利益還元を基本に、今後の経営環境、業績結果と見通し、配当性向、内部留保水準などを総合的に勘案したうえで配当金を決定しています。



## voice 株主様からのご意見を、今後の成長に活かしていきます

当社グループは「株主からの信頼」を行動の原点の一つと位置付け、株主の皆様から信頼される企業グループであり続けることを目指しています。IR担当取締役として、適時適切な情報開示による透明性の確保と企業価値の向上に向けた建設的な対話機会の充実、そして株主の皆様が権利を適切に行使できる環境の整備などに関連部署と連携して取り組んでいます。皆様からいただいた貴重なご意見を取締役会などで共有し、今後の成長のために活かします。

常務取締役  
植野 正



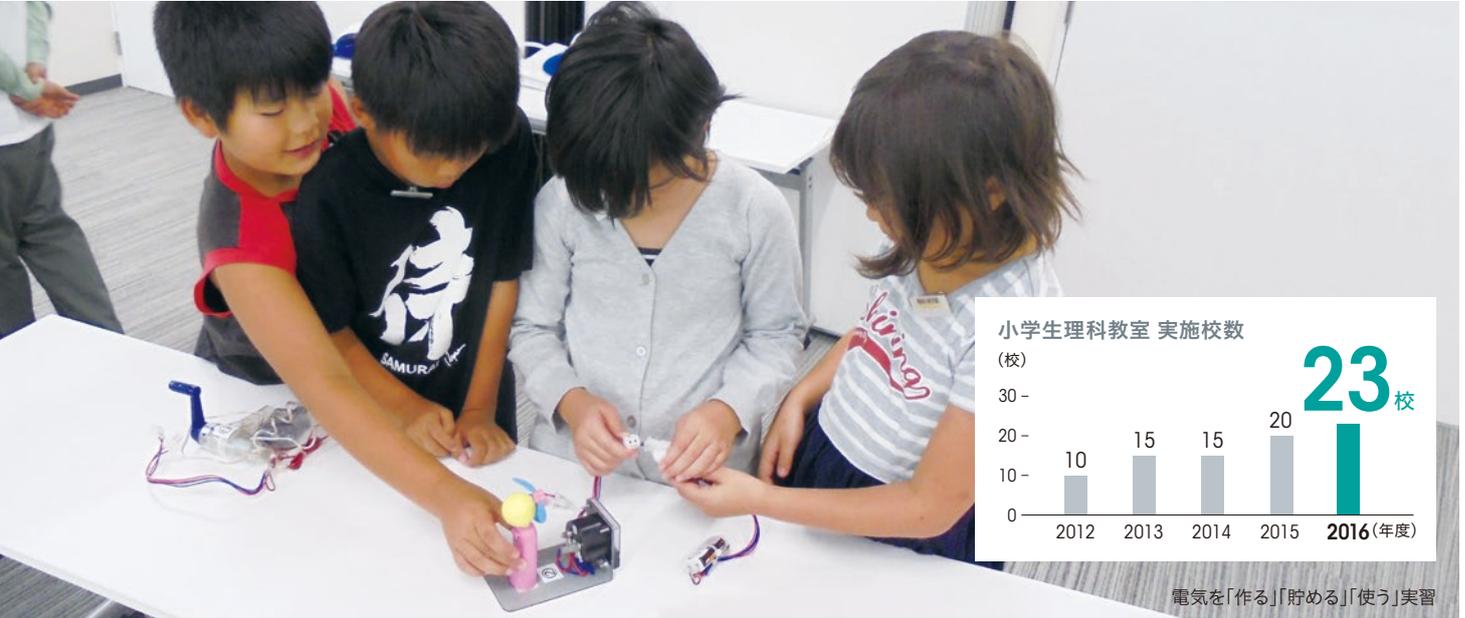
WEB  
掲載情報

▶ 経営方針 ▶ 業績ハイライト ▶ 株式について ▶ 業績・財務情報 ▶ IRカレンダー など



# 「社会からの信頼」のために

次世代を担う技術系人材の育成をはじめ、地域との共存を目指して、さまざまな社会貢献活動にグループを挙げて取り組んでいます。



電気を「作る」「貯める」「使う」実習

## Highlight 2016 技術系人材の育成

### 電気を「作る」 「貯める」「使う」 小学生理科教室

当社の技術を生かし、理科好きの小学生を増やすことを目的に、2010年度から本社をはじめ、事業所やグループ会社のある地域の小学校で理科教室を開催しています。2016年度は、京都府の16校、群馬県の5校、千葉県の2校の計23校で実施しました。

理科教室は太陽光発電について学習する小学4年生を対象に、屋外でのソーラーカー乗車体験と、屋内での電気に関するクイズを交えた授業や手回し発電機を使った実習を行います。実習では、手回し発電機で電気を「作る」、作った電気を充電式電池に「貯める」、貯めた電気を小型扇風機につなげて「使う」ことを、それぞれ体験します。

参加した児童からは「理科が好きになった」「将来はソーラーカーを作りたい」「電気についてもっと知りたい」といった声が毎年多く寄せられています。

今後も子どもたちが楽しく理科を学べるよう授業内容の改善に努め、技術系人材の裾野拡大に貢献していきます。



京都府の小学生理科教室でソーラーカーの仕組みを説明

### voice 普段できない体験ができ、良い学びの機会になりました

実習では、自分たちが作った電気でどれだけ扇風機を長く回せるかを競いあい、大いに盛り上がるとともに、電気を作り出す大変さを体験できました。子どもたちが楽しみにしていた屋外でのソーラーカー乗車では、体験後に仕組みの説明もあり、太陽光のパワーを実感したようです。学校の小さな光電池では実験できないことをいろいろと体験し、良い学びの機会になりました。

京都市立福西小学校  
4年生担任

久津間 俊夫様



## 社会貢献活動

### 3つの重点分野を基点に活動を推進

当社グループは、社会貢献活動の基本方針のもと、3つの重点分野を決めて活動しています。

2017年3月には、創立100周年を機に「(一財)日新電機グループ社会貢献基金」を設立しました。これを活用し、社会とより一体となった事業運営を目指します。

また、重点3分野以外にも、被災地(福島県)での教育支援や地域の子どもたちを対象にした剣道教室なども実施しています。

#### ■ 技術系人材の育成

小学生理科教室のほか、以下の活動などにも取り組み、技術系人材の裾野拡大を目指しています。

- 給付型奨学金制度「日新電機グループ奨学金」を新設し、技術系大学院生を支援
- 「女子高生のためのフューチャーフォーラム」に講師派遣協力(主催: 京都府、京都経営者協会)
- 近隣学校の工場見学受け入れ
- 中学生の職業体験受け入れ(日本アイ・ティ・エフ(株))
- 高校生の職業体験受け入れ(日本アイ・ティ・エフ(株)など)
- 海外の学生への奨学金支援(ベトナム・フエ高等工業大学など) **GLOBAL**



女子高生のためのフューチャーフォーラム

#### 社会貢献活動の基本方針

日新電機グループは、社会の一員として、より良い社会の実現を目指して積極的に社会貢献活動に参画していきます。

#### 取り組みの重点分野

- 1) 技術系人材の育成
- 2) 京都を中心とした歴史的文化財の保護
- 3) 地域の環境保全活動への協力

#### ■ 京都を中心とした歴史的文化財の保護

京都に根差した企業として、文化財保護を行う団体や事業へ継続的な支援を行っています。2016年度には、「文化財を守り伝える京都府基金」をはじめ、京都の歴史的文化財や町並みを未来に継承することを目的とした基金や事業、合わせて5件に寄付をしました。



京都府「文化財を守り伝える京都府基金」

#### ■ 地域の環境保全活動への協力

自然環境の保全を人類社会の最大の課題と捉え、清掃活動などの身近なところから、積極的に社員が参加して取り組んでいます。2016年度も「桂川(京都府)クリーン大作戦」のほか、名古屋市、高松市、福岡市、鳥栖市などで地域の清掃活動に協力しました。



桂川クリーン大作戦

WEB  
掲載情報

▶ 災害復興支援 ▶ 地域のイベント支援 ▶ 地域スポーツ振興支援 など



# 「パートナーからの信頼」のために

ビジネスパートナーとの誠実かつ公正な関係を心がけています。

ともに成長することで、顧客価値の提供と競争力の向上に努めています。



本社での取引先懇談会

## Highlight 2016 CSR調達の推進

### CSRの取り組みに関するアンケートのフィードバックを開始

当社では、2013年に制定した「日新電機グループCSR調達ガイドライン」の周知活動に加え、その浸透状況をモニタリングすべく、2015年度から京都地区の主要取引先様にCSRの取り組みに関するアンケート調査を実施しています。

2016年度は対象を前橋地区に拡大し、30社に対して実施したほか、アンケート調査の結果を取引先様に書面でフィードバックするように取り組みを深化させました。今後は、日頃の商談などを通じてCSR調達へのより一層の取り組みをお願いするなど、取引先様とより強固な信頼関係を構築するために本調査を活用していきます。

#### 購買方針の基本原則

当社は、公明正大、機会均等の原則に立ち、国籍や企業規模、取引実績の有無で判断することなく、常に優秀なお取引先を求めています。

#### 取引開始に当たっての当社の判断基準

- |                  |                        |
|------------------|------------------------|
| 1. 経営の安定         | 5. メンテナンス、サービス体制       |
| 2. 要求仕様、品質、性能の確保 | 6. グリーン調達対応力 (EMSの取得等) |
| 3. 価格競争力         | 7. CSRの取り組み            |
| 4. 納期その他の対応力     |                        |

#### 日新電機グループCSR調達ガイドライン(抜粋)

1. 優れた製品・サービスの提供
2. 技術力の向上
3. 健全な事業経営の推進
4. 地球環境への配慮
5. 法令・社会規範の遵守と公正・適正な企業活動
6. 社会貢献と反社会的勢力の排除
7. 人権・労働安全衛生への配慮
8. 情報開示とコミュニケーション促進
9. 秘密保持と情報セキュリティ
10. 紛争鉱物への対応

## 取引先様とのパートナーシップ

### サプライチェーンでの 情報セキュリティ強化

サプライチェーン・マネジメントのための施策として、2016年度から情報セキュリティが担保される環境を取引先様と一体となって整備する活動を開始しました。

情報セキュリティに関する相談を受け付ける専用ヘルプラインを当社情報システム部に開設したほか、京都・前橋地区の主要取引先様を対象にICT活用や情報セキュリティをテーマにした研修会を定期的で開催するなど、各社の情報セキュリティ担当者様と情報共有を図っています。



取引先様向け情報セキュリティ研修会

### 研修に参加し、 情報セキュリティマネジメント を着実に実行します

voice

情報通信技術が発達した現代において、社員の情報セキュリティ意識の向上は重要課題です。日新電機が開催する情報セキュリティ研修会では、ウイルス対策や情報漏洩対策に加え、ルールの明文化や社員教育を繰り返すことの重要性を学びました。

(株)素久製作所  
代表取締役社長 **野本 浩司**様

### 関係強化を目的にした 事業部別取引先懇談会

当社では、従来の取引先懇談会に加え、2016年度から事業部門単位での取引先懇談会も開始。取引先様が当社に対して日頃感じている改善要望や、より良い製品づくりについて深く議論し、具体的な意見やアイデアを出し合い、取引先様とのWIN-WINの関係をさらに強化していくことを目的として実施しています。

すでに2つの事業部で開催しており、今後はほかの事業部門にも展開していく方針です。



変圧器事業部での取引先懇談会

### 販売店様とのコミュニケーション

全国各地で当社の製品を販売していただいている販売店様とのきめ細やかな情報交換を通じて、パートナーとしての連携強化を図っています。

2016年度は全国販売店会議で当社グループの新技术や製品戦略について20社60人の方々に説明しました。また、営業活動に必要な技術的知識向上の支援を目的に、受変電設備の基礎技術についてのセミナーを開催し、19社57人の方々に参加いただきました。

参加者からは「日新電機の製品の詳細にまで触れる機会は少ないので、ぜひ継続してほしい」という声が多く寄せられました。

WEB  
掲載情報

▶ 協同組合日新電機協会について ▶ CSR調達ガイドライン ▶ グリーン調達ガイドライン など



# 「社員相互の信頼」のために

会社の成長を支え、社会との接点を担う社員が、仕事を通して安定した生活と生きがいを実現できるよう、グループを挙げてサポート体制を築いています。



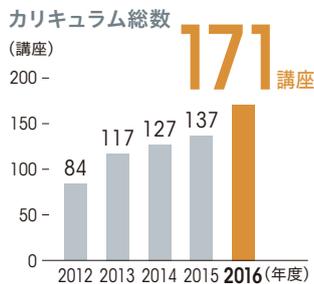
実機を使った体験型研修

## Highlight 2016 成長を支援する教育・研修の推進

### 独自の研修制度 「日新アカデミー」を 全社で拡充

当社グループでは、「全員教育」「ビジネススキルコース」「技術・技能コース」「部門内（関係会社内）教育」を4本柱とする独自の研修制度「日新アカデミー」を開設しています。2016年度からは新たに「CSカレッジ（お客様サービス専門コース）」を追加しました。

今後、京都本社に研修センターを建設し、特に技術・技能の継承と育成を強化して、受変電設備などの操作や保守点検を五感で理解する体験型研修施設として活用し「CSカレッジ」を一層充実させていく計画です。



一人あたりの年間総受講時間  
(2016年度、日新電機単体)

35 時間

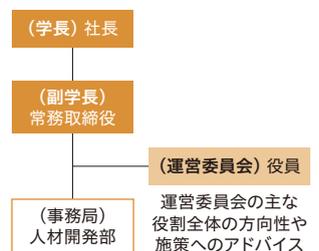
- 全社教育 14時間
- 部門内教育\* 21時間

\* 部門内教育:各部門でのセミナー・研修への参加、勉強会の開催など。

#### 教育体系



#### 運営体制



### voice 実務でも手応えを感じています

工事業部では、請負人に代わる現場代理人として現場監督を行います。CSカレッジの受講前は不安もありましたが、受注から工事完了までの業務内容を学んだことで、現場監督としての管理ポイントを意識しながら実務に当たることができ、円滑に推し進めることができました。お客様からも褒めの言葉をいただき、自信を持って仕事ができています。



工事業部  
西部産業交通部  
西部産交1グループ  
永井 達也

## 国内外での人材育成を図る 海外短期トレーニー制度 GLOBAL

2013年から若手・中堅社員の海外経験を増やし、グローバルリーダーを育成することを目的として「海外短期トレーニー制度」を開始し、2016年までに計20人を海外グループ会社に派遣しました。海外で実務経験を積み、帰国した後は若手社員向けの講話を通じて多くの社員に貴重な経験と気づきを共有しています。

トレーニーには女性社員も参加しており、日新電機ベトナム(有)で開閉器部材生産の立ち上げやコストダウン実施に携わるなど、グループ全体の連携強化にもつながっています。



ベトナムで指導するトレーニー

### 多様な人材の活用

## 女性が活躍できる職場づくり

女性活躍推進法に基づく「えるぼし2段階目(2つ星)」を2016年11月に取得しました。京都府内では3社目で、京都府内の製造業としては初の認定となります。

えるぼしは「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(通称、女性活躍推進法)」に基づく優良企業として、厚生労働大臣から認定されるものです。認定は3段階に分かれており、評価項目を満たす項目数に応じて認定を受けられます。評価項目には、「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」の5項目があり、当社は、「管理職比率」以外の4項目で認定基準を満たし、「2つ星」の

認定を受けました。

「3つ星」の認定取得に向けて、セミナーや研修の充実などを図り、男女の区別なく活躍し続けられる職場風土を醸成し、「管理職比率」についても改善していきます。



「えるぼし2つ星」を取得

## グループを挙げた 障がい者雇用の推進

2016年12月に、日新イオン機器(株)、(株)日新システムズ、日本アイ・ティ・エフ(株)の3社は、2016年3月に日新電機(株)の特例子会社として認定を受けた日新ハートフルフレンド(株)(以下、NHF)に対する関係会社特例の認定を受けました。この3社が日新電機(株)と人的・経営的に緊密な関係にあり、NHFに対し一定の発注量が見込めるなどの認定条件を満たしたことによるもので、NHFの経営基盤のさらなる安定と発展にも寄与するものです。

NHFは、人事台帳の電子化から設計図面や仕様書類の電子化、機密書類の廃棄(分別、シュレッダー)、郵送物の封入へと、業務を拡大しています。



NHFで働く社員



## 「社員相互の信頼」のために

### 多様な働き方とワークライフバランスの推進

## 仕事と生活の充実を目指し 計画休暇制度を導入

性別、国籍、年齢を問わず、すべての人が職場だけでなく、家庭や地域においても自分の力を発揮し、生きがいを持てる社会の実現を目指すことが、政府指針としても示されています。そこで当社では、計画的な業務遂行による労働時間の削減や有給休暇の取得促進を推進しています。その一環として、2016年度から3日間の連続した休暇を計画して利用する「有給休暇計画利用制度」と、社員やその家族にとって記念となる日に休暇を利用する「メモリアル休暇制度」を導入しました。各々のライフイベントやライフステージに利用しやすいよう、年度初めに各職場で計画を立てて取得促進を図っています。

こうした取り組みを通じて、職場のコミュニケーションを活性化し、風通しの良い職場環境を醸成するとともに、仕事と生活の双方の充実を図り、メリハリがある生産性の高い働き方へとつなげていきます。



妻の出産に合わせて計画休暇を取得

### 我が子の出産に立ち会うことができ、妻にも喜ばれました

voice

第一子となる我が子の出産の日に「有給休暇計画利用制度」を利用し、3日間の休暇を取得しました。出産に立ち会うだけでなく、産後の妻に付き添うこともでき、妻もとても喜んでいました。子どもが大きくなったら、今度は本制度を利用して家族旅行に出かけたいです。

開閉機器事業部  
開発部 開発設計グループ 砂川 寛



## セミナーなどを通じて 仕事と介護の両立を支援

仕事と介護の両立を実現すべく、2015年度に本社で開始した社内教育「仕事と介護の両立準備セミナー」を前橋・東京・中部・関西の各支社で開催しました。各種支援制度の説明や事例紹介に対し、参加者からは、「介護は突然始まることを再認識し、備えておくべきことがわかった」「介護はお互い様と捉え、一人で悩まず相談して進めたい」などの感想が寄せられました。

また2016年12月には本社に仕事と両立するための「介護サポート相談室」を開設し、当社グループで働くすべての社員を対象に、電子メール・電話・面談などで、漠然とした不安から支援情報の提供まで幅広く相談を受け付けています。

これらの取り組みにより、安心して働き続けられる職場環境を提供し、介護離職防止につなげていきます。



介護サポート相談室

### 安全・健康の増進

## 安全への感受性を高める 安全実感研修

当社では感電、転落、運搬災害を「三悪災害」と捉え、それらを撲滅すべく安全教育に注力しています。座学に加え、受講者の感性に直接訴える教育として2012年度から「安全実感研修」を開始し、電気取り扱い、高所作業、運搬作業などにおける危険を模擬体験することで、安全に対する感受性を高めています。現場作業に従事する経験の浅い作業員を中心に、研究職や設計職の執務系社員から同じ構内で働く派遣社員

や請負会社の方まで、三悪災害のリスクがある全員を対象に、2016年度までの5年間に約1,100人が受講しました。

こうした取り組みを続けてきた結果、事故が起りがちな経験年数5年未満の人たちの事故が低減しました。



安全実感研修で高所作業を体験

## 災害ゼロを目指して 職場環境を改善

三悪災害ゼロに向け、安全教育や設備機械対策に加え、2016年度は職場環境改善に重点的に取り組みました。

具体的には、転落災害の防止として階段からの転落を防ぐため、グループ会社を含めた建物や工場内の階段の両側に手すりを設置したほか、運搬災害の防止として歩車分離を明確にするため、構内の歩道に緑色の滑り止め付きの薄層塗装を施すとともに、歩道の再整備や横断歩道の追加設置を行うなど、歩行者を保護する対策を行いました。快適で安全な職場となるよう、今後も環境改善に取り組んでいきます。



歩行者を保護する本社の構内歩道

## コミュニケーションの強化

### 部門・役職を越えたつながりを強化

次世代を担う若手管理職・主任などが、社長や役員と当社グループのこれからについて意見交換を行う懇談会を2013年度から定期的に行っています。2016年度は、4月に始動した新中長期計画「VISION2020」の実現に向けて「自部門や全社にて取り組むべき課題は何か」「他部門とどのように連携していくか」などのテーマについて懇談しました。

また2016年度からは「前橋および京都の製造部門交流会」を開催しています。前橋と京都の製造部門の若手社員を中心に、工場を実際に見学し、各工場での安全対策や改善事例を紹介するなど、交流を通じて事例の水平展開を図っています。

今後も対話や交流を継続し、縦・横のつながりを強化していきます。



新任主任との懇談会

## 考え方を变える「自己改革」の voice ヒントにもなりました

社長と新任主任の意見交換会では、経営陣と率直に意見交換することができ、目標達成に向けてベクトルを合わせる良い対話の機会だったと感じました。また他部門と接するたびに、「部門を越えたコラボレーション」の意味や、実践で大きな相乗効果が得られることを痛感しています。

開閉機器事業部 製造部  
生技グループ 主任

日野 徹



WEB  
掲載情報

▶ 両立支援制度の充実 ▶ 女性社員活躍の状況 ▶ 障がい者雇用率 ▶ 休業度数 ▶ 社員の健康管理 など



# 「地球環境保全」への取り組み

環境に配慮した製品・サービスの開発や環境マネジメントシステムの運用により、グループ全体で環境負荷低減を進めています。

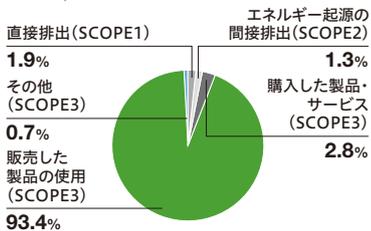


太陽光発電用パワーコンディショナ「スマートパワコン」

## Highlight 2016 環境配慮製品の開発

# 大幅な省エネ・ 高効率を実現する 「スマートパワコン®」

サプライチェーン全体でのCO<sub>2</sub>排出実績  
計876,771t-CO<sub>2</sub>(2016年度、国内グループ)



環境ラベル



当社では2013年から国内グループの間接的温室効果ガス排出量を「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドラインVer.2.1」(環境省・経済産業省発行)に基づいて算定しています。当社製品は、ライフサイクルの中で製品使用時に最も多くの温室効果ガスを排出します。

そこで2016年度には、使用時の消費電力を特に低減する「スマートパワコン」を開発。太陽電池で発電した直流電力を交流電力に変換するパワーコンディショナで、新型高効率インバータをはじめ、さまざまな新技術・システムを採用することで、省エネ・高効率を実現しています。

こうしたイノベーションにより、ライフサイクルでの温室効果ガス排出量を2000年度比で20%以上削減している製品について、独自の「環境ラベル」を適用しています。コンパクト化や有害物レスなどの環境配慮項目を満たしている製品への適用も拡大し、環境に配慮した製品のアピールに取り組んでいます。

## voice 出荷検査時も環境に配慮しています

省エネルギーを実現する「スマートパワコン」の特長の一つは、従来のエアコン方式ではなく、熱交換器と強制空冷を併用したハイブリッド構造であることです。使用時はもちろん、製造や出荷試験時を含めた製品のライフサイクルの視点から、出荷検査時にも熱エネルギーとして放出されていた使用済み電力を回収できる試験電源を使用するなど、省エネルギーの実現に努めています。

システム装置事業部  
品質保証部  
パワエレ検査グループ  
高橋 克典



## 省資源・リサイクル活動

### 3期連続で「ごみ減量・3R活動優良事業所」に認定

本社工場は、廃棄物のバーコードラベルを用いた廃棄物量のデータ管理や廃棄物の分類・分別方法の教材作成などの取り組みが評価され、京都市の「ごみ減量・3R活動優良事業所」に認定されています。

今回、3期連続となったため、永年優良事業所に認定されました。本制度は事業ごみの減量や再資源化に積極的に取り組んでいる事業所を顕彰するもので、2012年に創設されました。



京都市による  
認定証授与式

### 「産廃処理・3R等優良事業場」に認定

産業廃棄物(産廃)を排出する事業者は、運搬や処理を業者へ委託する場合も含めて、法律に基づき、処分を進める必要があります。京都市の「産廃処理・3R等優良事業場認定制度」では、遵守すべき項目が網羅されたチェックシートを用いて自己チェックできるようになっています。

この自己チェックの結果から、本社工場は2016年度の優良事業場に認定されました。



認定マーク

## 省エネルギーの取り組み

### LED照明への更新を推進

事務所などの照明を、蛍光灯から省エネ・高効率のLED照明に更新しています。前橋製作所では、2016年度に約3,400台を更新し、CO<sub>2</sub>排出量を年間147t削減することができました。



前橋製作所のLED照明

## 生物多様性の保全

### 京都の三大祭り「葵祭」に使われるフタバアオイを奉納

当社は2016年5月に、賀茂別雷神社(以下、上賀茂神社)で開催されたフタバアオイ<sup>\*</sup>の奉納式「葵里帰り」に参加しました。これは、京都市の「京(みやこ)の生きもの・文化協働再生プロジェクト」の認定を受けた企業などが、上賀茂神社から株分けされたフタバアオイを育成した後に同神社に奉納するものです。

当社は2014年度にプロジェクト認定を受け、生物多様性に配慮した緑地化に取り組み、フタバアオイの株数を順調に増やして今回の奉納に至りました。京都の三大祭りの一つ「葵祭」で、将来日新電機で育ったフタバアオイが祭りを盛り上げてくれることを祈念し、来年も奉納できるよう維持・管理に努めます。

<sup>\*</sup>フタバアオイ:希少になりつつある在来の草花。上賀茂神社と賀茂御祖神社(下鴨神社)の例祭「葵祭」に使用される。



本社工場内で育つフタバアオイ



上賀茂神社での奉納式

WEB  
掲載情報

▶ 環境マネジメントシステム ▶ 環境配慮製品の一例 ▶ 環境汚染防止 ▶ 環境に関するデータ など



# 「地球環境保全」への取り組み

## 環境方針

ISO14001に基づく環境マネジメントシステムに従い、環境汚染の予防を推進するとともに、環境負荷の低減とシステムの継続的改善に努める。事業活動全般の環境影響評価を行い、環境目的・目標を定め、定期的に見直しを実施する。環境関連の法規、規制および協定、受入を決めたその他の要求事項を遵守するとともに、自主基準を設けこれを管理する。環境負荷の低減を目指した次の活動を重点的に取り組む。

### 1. 環境配慮製品創出

製品の設計から使用、廃棄に至るまでのライフサイクルにおいて、環境に配慮した製品づくりを行う。

### 2. 温暖化防止

#### 1) 省エネルギー

省エネルギー活動により、エネルギー使用量の低減を促進し、CO<sub>2</sub>の発生量を削減する。

#### 2) SF<sub>6</sub>の大気排出抑制

電気絶縁ガス(SF<sub>6</sub>)の大気への排出を抑制する。(SF<sub>6</sub>の大部分を回収すれば、機器のコンパクト化によるCO<sub>2</sub>削減効果の方が大きい)

### 3. 排出抑制

#### 1) 省資源・リサイクル

資源を有効に活用するため、資源の節約と廃棄物の削減・再利用を促進する。

#### 2) 環境汚染防止

揮発性有機化合物(VOC)、排水、油および化学物質の排出、漏洩などによる環境汚染を防止する。

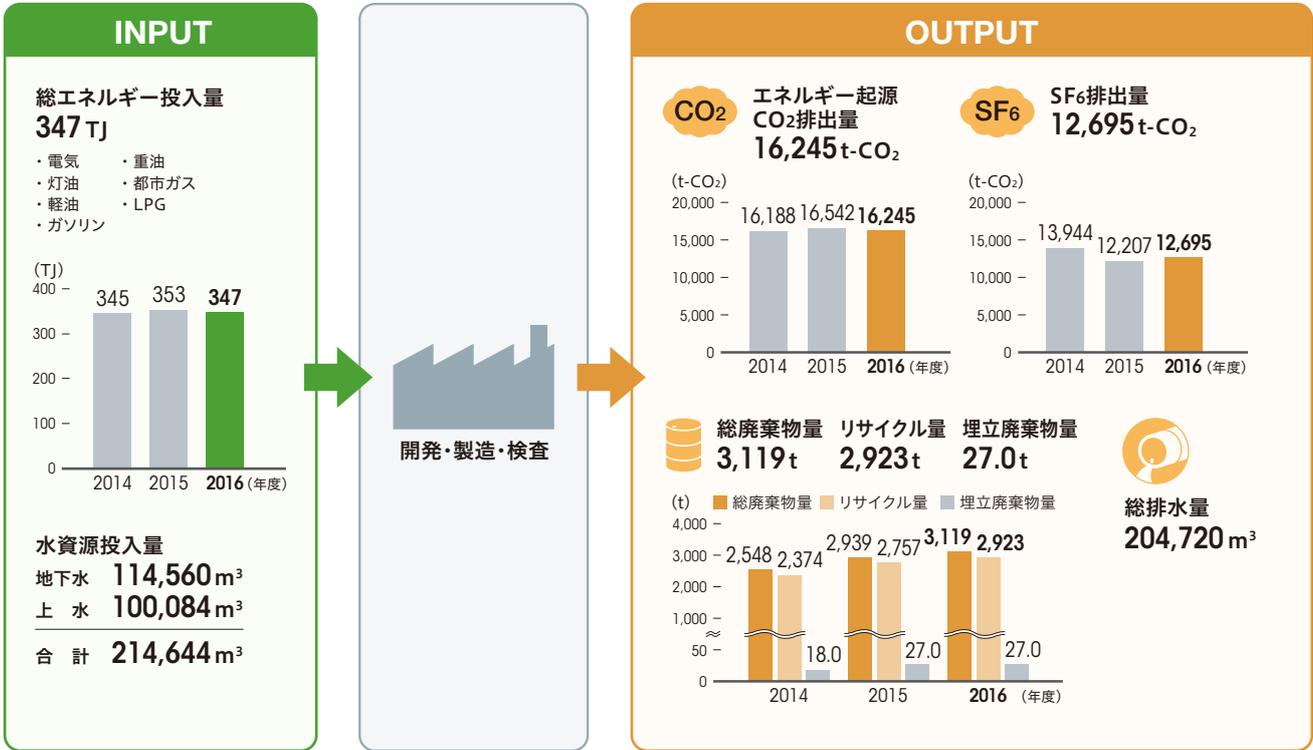
## 目標と実績

| 活動目標   |                         | 2020年度  |  |
|--------|-------------------------|---|--|
|        |                         | 環境中長期目標   | 環境年度目標   |
| 温暖化防止  | 環境配慮製品普及                | (間接排出量削減)<br>製品・サービスによるCO <sub>2</sub> 排出量削減<br>CO <sub>2</sub> 排出量:2015年度比7%削減                       | CO <sub>2</sub> 排出量:2015年度比1.4%削減                |
|        | 省エネルギー                  | (直接排出量削減)<br>企業活動によるエネルギー使用量抑制に伴う<br>CO <sub>2</sub> 排出量削減<br>原単位(t-CO <sub>2</sub> /百万円):2015年度比5%削減 | 原単位:2015年度比1%削減<br>(0.218t-CO <sub>2</sub> /百万円) |
|        | SF <sub>6</sub> の大気排出抑制 | (直接排出量削減)<br>SF <sub>6</sub> ガス大気排出率:1.0%以下   | SF <sub>6</sub> ガス大気排出率:1.8%以下                   |
| 排出抑制   | 省資源・リサイクル               | 総廃棄物量原単位(t/百万円):2015年度比5%削減   | 原単位:2015年度比1%削減<br>(0.0386t/百万円)                 |
|        |                         | 廃棄物リサイクル率:98.0%以上   | 廃棄物リサイクル率:93.5%以上                                |
|        | 環境汚染防止                  | 埋立廃棄物比率:毎年1.0%未満  | 埋立廃棄物比率:1.0%未満                                   |
|        |                         | 揮発性有機化合物(VOC)の大気への排出量削減<br>2015年度実績値維持  | 2015年度実績値維持                                      |
| 環境保全全般 |                         | 水使用量:2015年度比5%削減  | 水使用量:2015年度比1%削減                                 |
|        |                         | 国の目標に基づき、社員教育実施<br>森林管理協議会(FSC®)認証印刷物適用拡大   | 生物多様性を保全する植栽の実施<br>印刷物にFSC認証紙を適用                 |

※ この他、2020年度中長期目標として「海外グループ会社でエネルギー・水削減 原単位2015年度比2.5%削減」を設定しています。

## INPUT・OUTPUT(2016年度)

データ対象範囲:日新電機(株)、(株)NHVコーポレーション、(株)日新ビジネスプロモート、日新イオン機器(株)、日本アイ・ティ・エフ(株)、日新パルス電子(株)、(株)オーランドの7社



データ対象範囲:日新電機(株)、(株)NHVコーポレーション、(株)日新ビジネスプロモート、日新イオン機器(株)、日本アイ・ティ・エフ(株)、日新パルス電子(株)、(株)オーランドの7社

### 2016年度

| 実績   | 評価 | 活動事例  |
|--|----|---|
| 1.7%削減   | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●高効率製品(トランス、パワーコンディショナなど)の販売促進</li> <li>●環境配慮製品の販売促進</li> <li>●環境対話活動</li> </ul>                                     |
| 4.1%削減<br>(0.211t-CO <sub>2</sub> /百万円)                | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●エコワークの日実施</li> <li>●エコドライブ実施(アイドリングストップ、急発進や急加速防止)</li> <li>●老朽化設備の更新</li> <li>●照明のLED化</li> <li>●エコカー導入</li> </ul> |
| 1.2%   | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●回収装置の点検・整備によるリーク低減</li> <li>●取り扱い従事者への教育</li> </ul>   |
| 4.9%増<br>(0.0405t/百万円)                                 | ▲  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●梱包用木材の使用量削減</li> <li>●木製パレットの業者への返却</li> <li>●鋼板の歩留まり向上活動</li> </ul>  |
| 93.7%  | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●職場巡回による分別徹底</li> <li>●職場巡回による分別徹底</li> <li>●廃樹脂の再燃料化徹底</li> <li>●輸入梱包廃材の削減</li> </ul>                               |
| 0.87%  | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●金属付モールド材料のリサイクル化</li> <li>●廃棄物処理業者でのリサイクル化</li> </ul>   |
| 2015年度比2.7%削減  | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●溶剤使用量の削減、再利用化</li> <li>●塗装膜厚の適正化</li> <li>●溶剤回収装置活用による再利用促進</li> </ul>  |
| 2015年度比2.7%削減  | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●埋設配管の計画的な更新</li> </ul>  |
| 生物多様性に関する教育を新入社員へ実施<br>生物多様性を保全する植栽実施<br>印刷物にFSC認証紙を適用 | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●生物多様性に関する教育を実施</li> <li>●NISSIN REPORTなどでFSC認証紙適用</li> </ul>  |

○…目標達成   ▲…目標未達(前年より改善)   ▲…目標未達(前年より悪化)

社外からの主な表彰・認定

2016年

4月

(一社)日本電機工業会  
第65回電機工業技術功績者表彰 奨励賞  
「温湿度(塩分等付着)検出スイッチの開発と実用化」  
対象 日新電機(株)

5月

(一社)日本クレーン協会 京都支部  
平成28年度優良クレーン運転士表彰  
対象 日新電機(株)

第64回電設工業展 JECA FAIR2016  
第55回製品コンクール 大阪市長賞  
複合環境センサ MES-01  
対象 日新電機(株)



6月

京都市危険物安全協会  
平成28年度京都市危険物防災推進大会  
京都市消防局長賞・京都市危険物安全協会賞  
対象 日新電機(株)

九州電力(株)  
「熊本地震の復旧対応」感謝状  
対象 日新電機(株)

9月

(一社)日本クレーン協会 京都支部  
第26回ホイストクレーン安全運転競技大会  
優勝・3位入賞  
対象 日新電機(株)

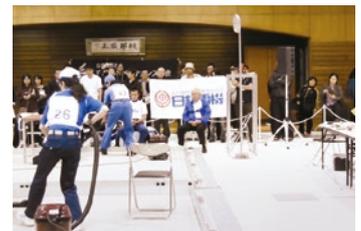


(株)SCREENセミコンダクターソリューションズ  
ベストパートナー賞  
対象 (株)日新システムズ



10月

(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構  
第36回全国障害者技能競技大会(アビリンピック)  
銀賞  
対象 日新ハートフルフレンド(株)



11月

神戸市  
平成28年度神戸市優良工事表彰  
「中突堤ポンプ場電気設備工事」  
対象 日新電機(株)



(公社)発明協会  
平成28年度近畿地方発明表彰 発明奨励賞  
「非晶質カーボン被覆工具およびその製造方法」  
対象 日本アイ・ティ・エフ(株)、日新電機(株)ほか

2017年

1月

前橋市  
平成28年度前橋市産業振興・社会貢献優良企業表彰  
対象 日新電機(株)

2月

経済産業省  
健康経営優良法人2017  
中小規模法人部門 認定  
対象 日新パルス電子(株)



3月

右京消防署  
「消防記念日」市民消防  
消防署長表彰 自主防火事業所  
対象 日新電機(株)

## 社外からの評価

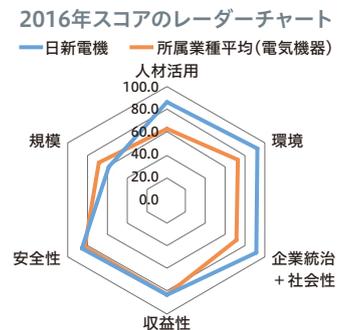
当社では企業評価の一つの指標となる各種調査に回答しています。アンケート調査の設問は社会からの関心が高いテーマであると捉え、CSR活動計画の参考にしています。また調査結果は、当社の位置付けを確認するとともに、取り組みの活性化のために活用し、ステークホルダーの皆様からより信頼される企業を目指しています。

## 第11回CSR企業ランキング

(「週刊東洋経済」：2017年3月4日号)

幅広いステークホルダーから「信頼される企業」の発掘を目的とし、CSRの取り組みを「人材活用」「環境」「企業統治」「社会性」の4分野で評価。また東洋経済新報社が保有する上場企業財務データをもとに収益性、安全性、規模を評価し、ランキングにまとめたものです。

2016年は対象企業1,408社(有効回答1,136社)中176位(前年106位)でした。相対的に順位を下げたものの、CSR分野では得点の上昇を続けており、4分野すべてにおいて昨年同様AAAの評価を受けています。



## 編集方針

本報告書は、当社グループの概要を紹介する会社案内と、当社グループのCSRの考え方と取り組みを紹介するCSR報告書を合本したものです。CSR報告書は、冊子とウェブサイトの2つの媒体で構成しています。冊子では23・24ページに示した計画と実績に従って、2016年度の実績を紹介しています。ウェブサイトでは、冊子でご紹介できなかった事柄やデータ類なども掲載しています。

当社ウェブサイト <http://nissin.jp/csr/index.html>

### ■ 報告範囲

21ページ以降のCSR報告書では、日新電機(株)および国内グループ会社を基本的な対象としています。一部海外グループ会社の取り組みも紹介

しており、GLOBALマークで示しています。グループという表記でも対象が異なる場合や定量的な情報は、対象範囲をその都度記載しています。

### ■ 報告対象期間

2016年4月1日～2017年3月31日

発行年月：2017年6月

(前回発行：2016年6月、次回発行予定：2018年6月)

### ■ 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポート・ガイドライン(第4版[G4])」

人と技術の未来をひらく

# 日新電機株式会社

〒615-8686 京都市右京区梅津高畝町47番地  
TEL(075)861-3151(代表) FAX(075)864-8312 <http://nissin.jp/>

## 日新電機グループの迎賓館・石村亭(せきそんてい)

文豪・谷崎潤一郎が「潺湲亭(せんかんでい)」と名付けてこよなく愛した邸です。世界遺産「下鴨神社・糺(ただす)の森」に面した、数寄屋造りの建物と池泉回遊式の庭が、谷崎のお気に入りでした。

1956年、当社が縁あって譲り受けることになった際、谷崎は邸を新たに「石村亭」と名付けました。そして当社は、谷崎と交わした「京都に来た時は見に行くので、現状のまま使ってほしい」という約束を、現在まで半世紀以上にわたって大切に守り続けています。

石村亭は、日新電機グループの行動の原点「誠実・信頼・永いお付き合い」を実践してきた証となる貴重な財産です。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォントを  
採用しています。